都島区まちづくりビジョン2040

Meetable Town みやこじま

～都島区版 15分都市～

大阪市都島区役所

（案）

目 次

ごあいさつ 02

Chapter1　はじめに

まちづくりのトレンドをチェック！

1 都島区まちづくりビジョン2040とは 05
2 都島区のまちづくりへの問題意識 06
3 まちづくりのトレンドを知ろう～世界のまちづくりの動き～ 08
4 都島区を取り巻くまちづくりの動き（上位・関連計画） 10

Chapter2　都島区の「いま」

都島区の魅力や強み・弱みをデータで展望

1 都島区の「いま」を分析する４つの視点 13
視点1 生活を支える都市の「便利さ」 14
視点2 暮らしに選択肢を生む「まちの多様さ」 15
視点3 都市の利便性を補う「サービスや情報へのアクセスの容易さ」 18
視点4 暮らしの質を高める愉しみの「豊富さ」 20
2 みんなに聞いてみた都島区の魅力 26
■まちの人たちの声 26
■民間事業者の声 27
■有識者の声 28
3 その他、区内で特筆すべきまちづくりのうごき 29
4 都島区の特徴と魅力 31

Chapter3　めざしたい都島区の2040年の姿

ビジョンを可視化してみると…

1 都島区のまちづくりで大切にしたい考え方 34
2 まちづくりのコンセプト 36
3 “Meetable Town（ミータブル タウン）”の先に生み出したいまちの姿 37
4 描きたいまちのシーン 38
COLUMN（コラム）みんなで考えた「2040年の都島区」 41
5 まちづくりのコンセプトを踏まえて、取り組みたいこと 42

Chapter4　ビジョンの実現に向けたアプローチ

2040年までの行動の方向性

1 ビジョンを活かすべき機会と各主体の役割 45
2 ビジョンの実現に向けた取組の方向性 46
3 先行的な取組 49
4 ビジョンの実現に向けたロードマップ 51
NOTES参考事例や制度、事業 52

用語集 54

ごあいさつ

都島区がいつまでも人を惹きつける魅力にあふれた「出会える」まちをめざして

都島区には、また会いたいと思える人、また訪れたい場所、また参加したいと思える活動や機会など、さまざまな魅力があります。

一方、大阪市全体が近い将来、人口減少に転じることが想定される中、当区においても、これまでと同じ方法だけでまちの活力や魅力を維持していくことは容易ではありません。

このような中、まずは都島区の「いま」を検証し、多様な魅力や強みを整理して見える化するとともに、"15年後"の将来を展望し、区民一人ひとりの暮らしをより豊かにし、それぞれの幸せ（Well-being）を実感できることをめざして「Meetable Townみやこじま～都島区版15分都市～」をコンセプトに掲げ、まちづくりのビジョンを描きました。

都島区役所の役割は、区民に最も身近な行政機関として、生活に密着したサービスを提供するとともに、大阪市全体のまちづくりを担う市役所と区民をつなぐパイプ役として、地域課題や地域の意向を的確に伝え、解決・実現へ橋渡しすることにあります。

ビジョンの実現に向けて、本市各局との実行性の高い連携を図り、住民主体のまちづくりを進めていきます。

また、本ビジョンの策定にあたっては、有志の区民の皆さまや区内で活躍されるキーパーソン、民間事業者・各種団体の方々から、多くのご意見をいただきました。日頃から地域課題に向き合い、創造的なアイデアを温めてこられた皆さまの声により、本ビジョンはより彩りを増し、地に足の着いた内容となりました。

本ビジョンに描くまちづくりの実現には、行政だけでなく、区民、および区内の民間事業者・各種団体の皆さまが相互に今回のような対話を繰り返し、集合知を得ていくプロセスが必要です。

都島区一丸となって、

- **会いたいと思える人にすぐ会えるまち**
- **訪れたい場所が近くにあるまち**
- **参加したい活動に気軽に参加できるまち**

「Meetable Town（出会えるまち）みやこじま」を実現していきましょう。

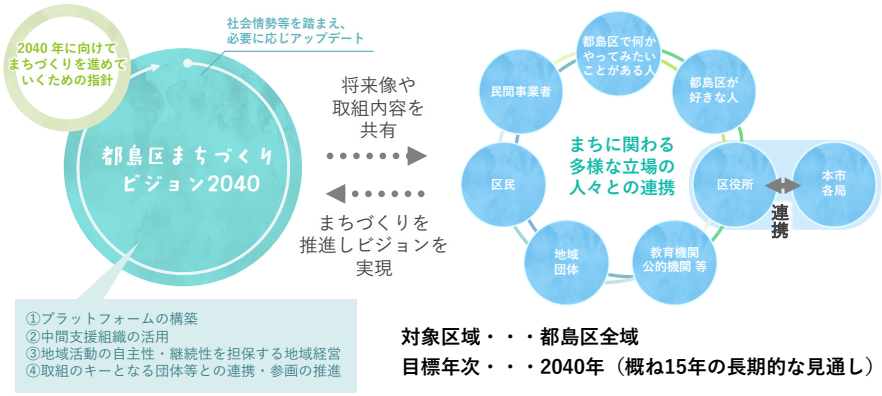
都島区長　藤岡慶子

Chapter 1

はじめに

本ビジョンの目的と位置づけ

- 長期的な視点での区の将来像を示し、多様な立場の人がまちづくりを進めていくための指針として、本ビジョンを策定



対象区域・・・都島区全域
目標年次・・・2040年（概ね15年の長期的な見通し）

都島区のまちづくりへの問題意識

区の資源を活かしたまちづくりに向けて

- 水辺・緑・歴史文化など多様な都市資源
- 京橋駅を中心とした高い拠点性
- 資源が点在したままで、魅力の「見える化」や回遊・滞在の促進、まちの魅力向上に十分つながっていない
- 活用の仕掛けや発信の強化が必要

➡既存資源をつなぎ、魅力を体感できる仕掛けづくりが重要
➡行政に加え、地域団体・民間事業者と連携した具体的な取組の推進が必要

コミュニティ豊かなまちづくりに向けて

- 人口は増加傾向だが2030年以降は減少に転じる見込み / 町会加入率も低下
- 価値観の多様化により、人と人とのつながりが希薄化
- 防災・福祉など地域課題は複雑化し、地縁型コミュニティの維持が困難に

➡多様な主体（企業・団体・行政等）が連携し、地域を支える仕組みづくりが重要
➡日常的に無理なく関われる機会を創出し、担い手を広げていくことが必要

まちづくりのトレンド

- **まちづくりは車中心から人中心へ**
- **Well-being（ウェルビーイング）が重視される今**
- **脱炭素・気候変動への意識の高まり**
- **デジタル技術の活用（DX）**
- **世界的に注目を集める「15分都市」の考え方**

フランスのカルロス・モレノ氏によって提唱された新しい都市モデル。

〔４つのキーワード〕
- **近接性**
- **混在性**
- **遍在性**
- **有機物の密度**

上位・関連計画

- **Beyond EXPO（ビヨンド エキスポ） 2025**
- **大阪のまちづくりグランドデザイン**
- **大阪城公園周辺地域まちづくり方針**
- **大阪市緑の基本計画〈2026〉**

1　都島区まちづくりビジョン2040とは

本ビジョンの目的と位置づけ

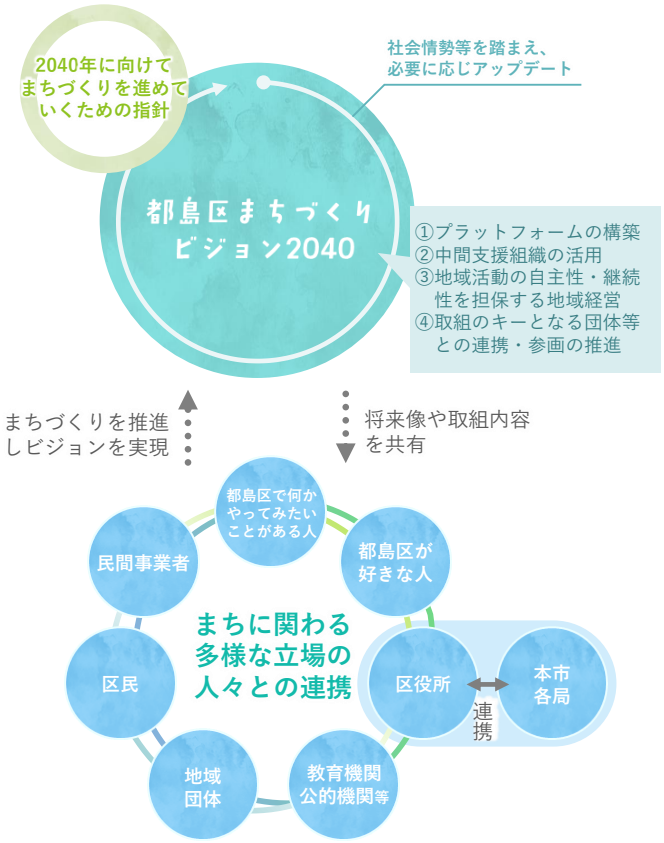
都島区では、区政全般を対象とする「都島区将来ビジョン2030」（計画期間５年）のもと、区の特性を活かしたまちづくりに取り組んでいます。 一方で、区民の満足度・幸福感の向上につながる都市の発展をめざし、今後到来するまちの長期的な変化に対応しながら、新たな都島区のイメージやまちの魅力の創出、育成、醸成などにつながる施策・事業に多面的に取り組む必要があります。

このため、長期的な視点での区の将来像を示し、まちに関わる多様な立場の人々がこれを共有し、同じ方向を向いてまちづくりを進めていくための指針として、「都島区まちづくりビジョン2040」（都島区将来ビジョン別冊）を策定しました。

本ビジョンの推進にあたっては、区民・地域団体・民間事業者・行政が連携しながら、①活動や情報・人材がつながるプラットフォームの構築、②中間支援組織の活用に向けた検討、③地域活動の自主性・継続性を担保する地域経営 （財源確保を含む）の検討、④取組のキーとなる団体等との連携・参画の促進 の4点についてともに検討し、段階的な実現をめざします。

- 都島区役所は本ビジョンに基づき各種施策を展開するとともに、市役所の施策がビジョンの実現に寄与するよう連携していきます。
- 区民や民間事業者のみなさまが活動や事業を実施するにあたっては、本ビジョンの実現に寄与することを期待します。
- 本ビジョンは、社会情勢等を踏まえ、必要に応じアップデートすることを前提としています。

対象区域・・・都島区全域
目標年次・・・2040年（概ね15年の長期的な見通し）



2 都島区のまちづくりへの問題意識

区の資源を活かしたまちづくりに向けた問題意識

都島区には、三方を川に囲まれた水辺や緑、歴史・文化資源など、都心近接でありながら多彩な都市資源がそろっています。加えて、区南部の京橋駅は大阪都心東部の主要ターミナルとして発展してきました。

一方で、こうした強みが、まちの魅力向上や回遊・滞在の増加といった形で十分に成果として現れているとは言い切れません。資源が点在したまま、魅力として「見える化」が十分に出来ておらず、活用の仕掛けや発信の強化が必要です。

すでにある資源をより積極的に活かし、都島区ならではの魅力を体感できる機会を増やすためには、行政だけでなく、地域団体や民間事業者の発想力・機動力を取り込み、連携して具体的なアクションを積み重ねていく必要があります。

淀川河川公園や毛馬桜之宮公園などの水辺・緑、周辺の歴史・文化資源を、まちの魅力向上により一層結び付けていく必要があります。

区内に点在するストックをより活用し、都市的な利便性の高さに加えて、豊かな暮らしを実感できる機会を増やしていくことが求められます。

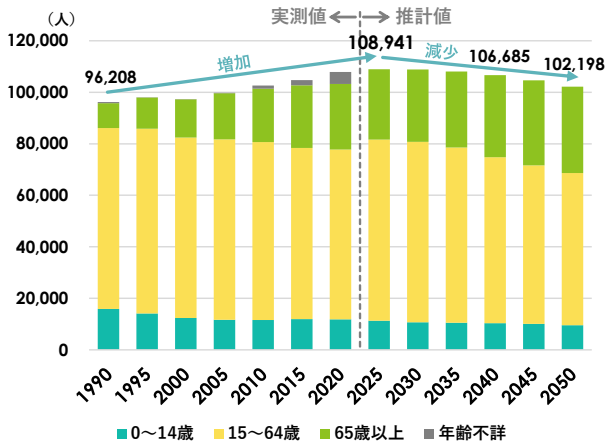
京橋駅は1日に約40万人の乗降客数がありますが、乗り換え利用が大半で、来訪者が滞在・回遊したくなる仕掛けが不足しています。

2 都島区のまちづくりへの問題意識

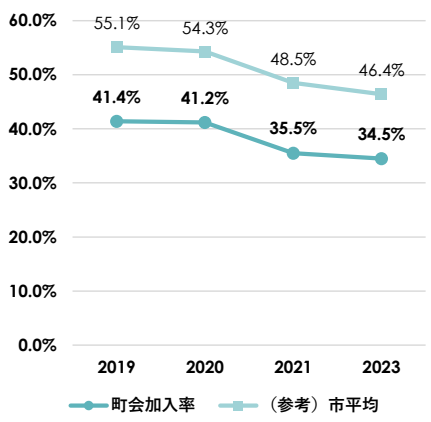
コミュニティ豊かなまちづくりに向けた問題意識

都島区の人口は増加傾向にあるものの、2030年以降は減少傾向に転じる見込みです。あわせて、町会加入率は大阪市平均を下回り、年々低下しています。さらに、生活様式や価値観の多様化等により、人と人とのつながりの希薄化が進んでいくと考えられます。一方で、地域社会においては、防災や地域福祉など、複雑化する課題への対応の必要性は一層高まっています。

2040年には、地域を支えてきた町会などの地縁型コミュニティは、従来の機能を維持することが難しくなっていくことが予測されます。そのため、民間事業者や各種団体、行政が連携し、多様な主体が地域を支える担い手として関われる環境を整えることが重要です。日常の中で無理なく参加でき、続いていく仕組みをつくり、共助の担い手を広げていく必要があります。



都島区の推計人口
（出典：国立社会保障・人口問題研究所）



都島区の町会加入率推移
（出典：都島区町会加入促進アクションプラン（R6～R8））

地域	加入率
桜宮	19.0%
中野	15.3%
東都島	40.6%
西都島	33.1%
内代	33.4%
高倉	56.5%
友渕	24.5%
淀川	58.7%
大東	60.2%
区全体	34.5%

地域別の町会加入率(2023年調査)

3 まちづくりのトレンドを知ろう　～世界のまちづくりの動き～

まちづくりは車中心から人中心へ

近年、安全・健康・環境・経済・にぎわいといった多面的な観点から、世界各地で車中心からウォーカブルな人中心のまちづくりへと、その動きがシフトしています。

ニューヨーク市
「Green Light for Midtown Evaluation Report」

国交省「ウォーカブルポータルサイト」

日本では道路や広場を人が歩き、滞在できるウォーカブルな空間へ転換するとともに、リノベーションまちづくりや市街地整備2.0など、既存ストックと人の活動を活かしたまちづくりが進められています。

Well-being（ウェル ビーイング）が重視される今

経済的な豊かさだけでなく、「自分たちが暮らすまちでどのように生き、どのように感じ、どのように関われるか」といった暮らしの質の視点から、豊かさをとらえることが求められています。

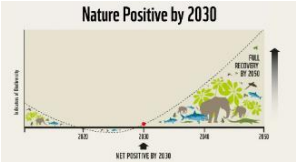
非営利メディアgreenz.jp「ポートランド・シティリペアのまちづくり」

デジタル庁「つかいこなす　地域幸福度（Well-Being）指標」

人と人とのつながりを育み、多様性が尊重されることで、だれもが包摂される環境づくりに加え、近年は、市民参加型のまちづくりや地域への誇り・愛着であるシビックプライドの醸成が進められています。

脱炭素・気候変動への意識の高まり

近年、気候変動による異常気象が世界的に深刻化する中で、脱炭素・気候変動対策は、健康や経済、都市の持続性を守るための基盤的な取組として、その重要性が高まっています。



Nature Positive Initiative「Nature Positive by2030」

環境省「脱炭素選考地域-脱炭素地域づくり支援サイト」

緑や水辺を活かすグリーンインフラや生態系の回復をめざすネイチャーポジティブの考え方、環境負荷の少ないモビリティの導入などを通じて、環境への配慮を日常の暮らしや都市の構造に組み込む動きが広がっています。

デジタル技術の活用（DX）

だれもが取り残されることなく情報にアクセスし、参加可能な環境を整えることは、包摂的で持続可能な都市を実現するための基盤として、その重要性が高まっています。

IMD「Smart City Index 2025」

国交省「スマートシティ官民連携プラットフォーム」

具体的にはスマートシティの推進やオープンデータの活用、デジタルによる住民参加の促進、防災分野でのDX化などを通じて、だれもが情報にアクセスし参画できるまちづくりが進められています。

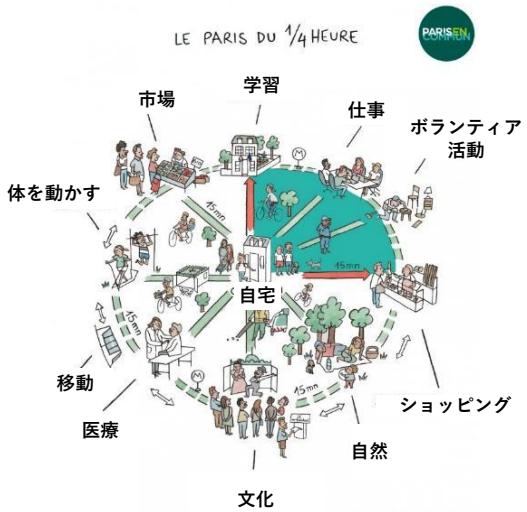
3 まちづくりのトレンドを知ろう　～世界のまちづくりの動き～

世界的に注目を集める「15分都市の考え方」

「15分都市」とは？

フランスのカルロス・モレノ氏によって提唱された、都市を構想するうえでの概念です。

生活、仕事、買い物、医療、教育、自己啓発という6つの必須とされる社会機能に15分以内に徒歩または自転車でアクセスでき、社会生活にとっても地球環境にとっても持続可能となる新しい都市モデルであるとされています。



パリが推進する15分都市の概念
（出典：https://www.simagazin.com/en/si-urban-en/topics-urban/cities/paris-die-stadt-der-viertelstunde/ より一部日本語訳）

「近い」ことだけではない、大切なこと

また、「15分都市」の概念は、以下の４つのキーワードで語られています。

「近接性」「混在性」により、歩いて暮らせる基盤が成立し、この基盤の上に「有機密度」が高まることで活力が発生し、さらに、テクノロジーに基づく「ユビキタス」な環境が形成されることで物理的基盤を補完するとされています。

▶近接性

住民の生活圏内に、必要な施設（学校、病院、スーパー、職場など）が物理的に近い距離に配置されている状態をいいます。

▶混在性

住宅、商業施設、オフィス、公共スペースなどが、特定の用途ごとに分離されるのではなく、相互に混在している状態を指します。職住近接を実現するための重要な要素です。

▶遍在性（ユビキタス）

「どこにでも存在する」という意味で、ICT（情報通信技術）が都市の隅々にまで浸透し、人々の生活を支援する状態であり、物理的な近接性だけでなく、情報によるアクセスのしやすさも重視されます。

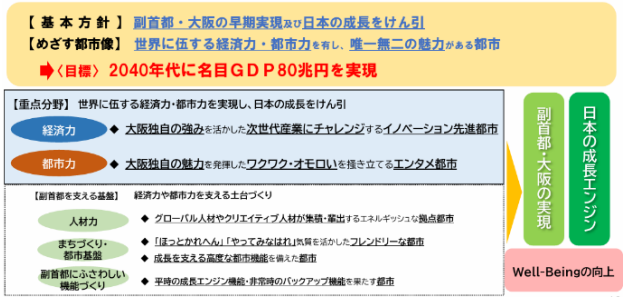
▶有機物の密度

有機物（動物・植物）に加え、人と人との交流、自然、歴史・文化といった、都市に活気と多様性をもたらす要素が、適度な「密度」で存在することをいいます。

4 都島区を取り巻くまちづくりの動き（上位・関連計画）

Beyond EXPO 2025（2026年３月）

大阪府・市では、大阪・関西万博後の大阪の持続的な成長・発展と、府民・市民の暮らしの向上に向けた新たな成長戦略を策定。



大阪のまちづくりグランドデザイン（2022年12月）

「未来社会を支え、新たな価値を創造し続ける、人中心のまちづくり」を目標とし、めざすべき将来像やまちづくりの方向性を示しています。

京橋を含む「大阪城・周辺エリア」は、拠点の一つ（国際観光拠点）に位置づけられている。
・複合的な都市機能の集積、業務・商業・観光機能の強化
・関西広域の観光資源をつなぐハブ拠点の形成

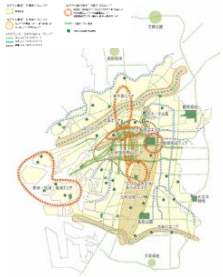
大阪城公園周辺地域まちづくり方針（2025年５月）

「大阪京橋駅周辺」、「大阪ビジネスパーク（OBP）駅周辺」、「森之宮周辺」の３つのエリアが一体となったまちづくりを進めるための方針を策定。

本区を含む「大阪京橋駅周辺・大阪ビジネスパーク駅周辺」においては、以下の土地利用を図ることとされている。
① 国際的な集客・滞在・商業空間 及び 賑わい拠点
② 新たな歩行者ネットワーク
③ スタートアップ・ベンチャーエリア
④ 人中心の駅前空間・拠点

大阪市緑の基本計画〈2026〉（2025年11月）

「一人ひとりが輝くみどりのまちづくり」Green Wellness Osakaの実現をめざし、大川・中之島エリアをみどりの骨格を形成するエリアとして位置づけています。



Chapter2
都島区の「いま」

Summary

都島区の「いま」を分析する４つの視点

15分都市の考え方を基軸に４つの視点で都島区を分析

視点1　生活を支える都市の「便利さ」　--- 近接性

- 梅田やなんばなどの都心に近く、公共交通が発達しており、利便性が高い
- 生活利便施設も概ね徒歩圏内に充実

視点2　暮らしに選択肢を生む「まちの多様さ」　---混在性

- 大規模な工場跡地などをうまく活用し、昔から生活の営みがある地域と新しいまちの調和をとりつつ、住まいと働く場のバランスが取れたまちづくりが進んできた
- 北部～南部まで、エリアごとに特徴のある土地利用、居住者層

視点3　都市の利便性を補う「サービスや情報へのアクセスの容易さ」　---遍在性

- シェア型モビリティなどのサービスが普及しつつあるが、一部、利用しにくい地域も
- Webサービスの普及には利用率の向上も課題
- 区の情報を区内外に届ける発信力の強化が必要

視点4　暮らしの質を高める愉しみの「豊富さ」　---有機物の密度

- 豊かな自然環境やコミュニティの場、サードプレイス、魅力的な人などの資源は豊富にある状況
- 一方で利用は限定的で、日常は買い物や送迎など「必要な行動」に偏りがち

区民、民間事業者、有識者に聞いた都島区の特徴と魅力

【水辺の特徴と魅力】
- 都島区らしさを活かすカギは「川」と「緑」
- 桜並木や公園、三方の河川など、日常の風景として自然が身近にある　…etc

【京橋エリアの特徴と魅力】
- 京橋はヒガシの「ハブ」になるポテンシャルがある
- 京橋～OBP～京橋公園をつなぐ回遊動線の形成が重要
- 京橋駅の魅力と安全性を高め、広域拠点としての価値を再構築　…etc

【まちなかの特徴と魅力】
- 住環境が良く、転入してくる人も多い
- 南北移動と鉄道空白地帯の利便性向上が課題
- 団地や緑道など既存ストックの解放･活用がカギ
- 独立開業などにチャレンジしやすい土壌がある
- 都心アクセス（約15分）・区内拠点の近接性・身近な生活圏という、多層的なレイヤーが重なる点が都島区の最大の魅力　…etc

【まち全体に関わるキーワード】
- 区の魅力や資源を発信する仕組みの強化が必要
- 日常的な交流と健康活動を支える場づくりが重要
- 人流データ等に基づく空間整備とICT活用の推進が必要　…etc

区内で特筆すべきまちづくりの動き

京橋エリア　上位計画において、国際観光拠点として位置づけられ、都市再生緊急整備地域に指定されるなど、大阪の「ヒガシ」の玄関口として、さまざまな取組が進められている

淀川エリア　淀川大堰閘門（おおぜきこうもん）の運用が開始され、さらなる舟運の活性化が期待される

交通の便が良く優良な住環境がある一方で、その地域資源や魅力をまだ活かしきれていない

1　都島区の「いま」を分析する４つの視点

世界で注目を集めている、“生活に必要なあらゆる機能に徒歩・自転車・公共交通でアクセスできる身近な生活圏をつくる”という「15分都市」の考え方（P.9参照）。

本章ではこの考え方を基軸に、以下の４つの視点から都島区の特徴を分析していきます。

視点1　生活を支える都市の「便利さ」
---近接性

視点2　暮らしに選択肢を生む「まちの多様さ」
---混在性

視点3　都市の利便性を補う「サービスや情報へのアクセスの容易さ」
---遍在性

視点4　暮らしの質を高める愉しみの「豊富さ」
---有機物の密度

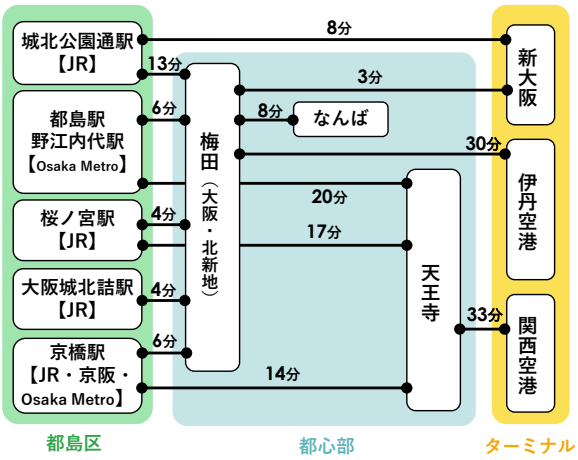
本章では、便宜的に徒歩圏＝約1.2km（≒15分）として設定し、分析の目安とします。

1 都島区の「いま」を分析する４つの視点

視点1 生活を支える都市の「便利さ」

生活に必要な機能やサービスに短時間でアクセスできることは、移動にかかるストレスや時間を減らし、生活の質を高めるうえで重要な要素であるとされます。
都島区は、公共交通が発達しているとともに、住まいの近くに生活に必要な機能が充足している利便性の高い環境が強みです。

都心に近く公共交通の利便性が高い

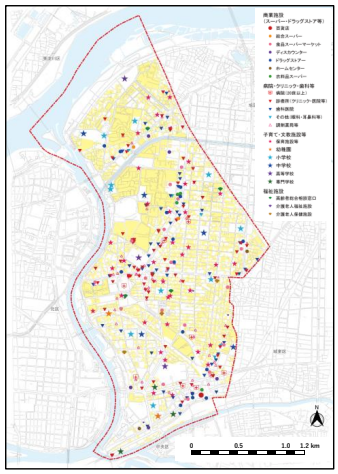


区内から都心部・ターミナルまでのおおよその所要時間

８つの鉄道駅から、梅田へは約5～15分、なんばへは約15分、天王寺へは約20分でアクセスできます。また、ターミナルである新大阪駅へも区内の各駅から概ね15分で移動可能で、伊丹空港・関西空港へも概ね1時間程度でアクセスでき、公共交通の利便性に優れたまちです。

生活利便施設が概ね徒歩圏内に充実

駅・バス停カバー圏



生活利便施設の分布

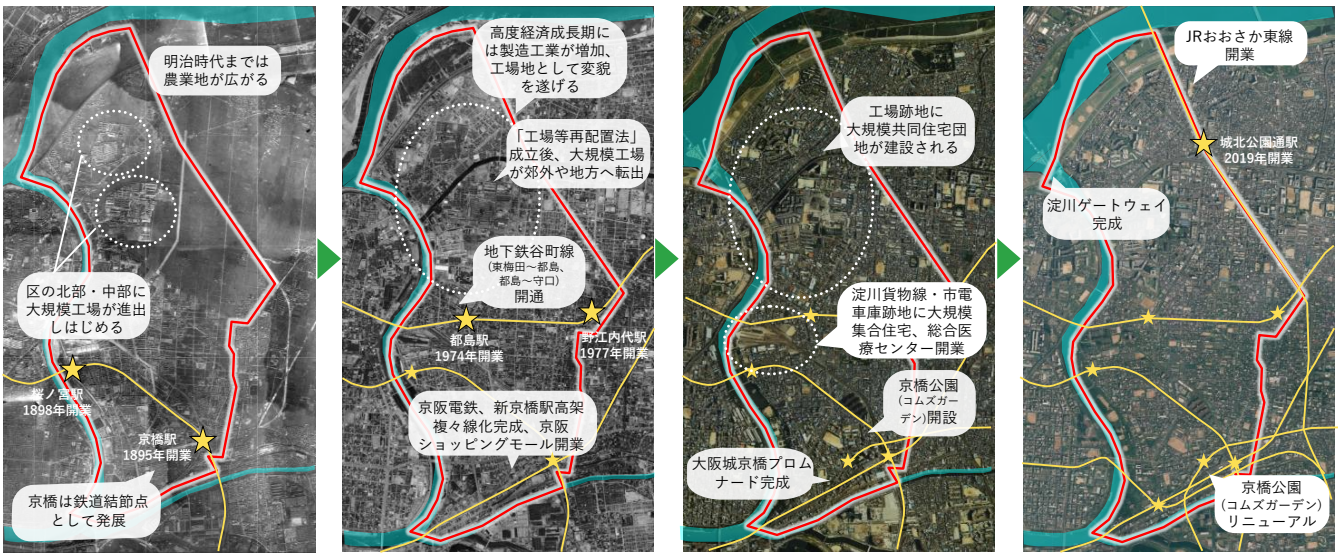
北部地域の一部を除き、公共交通の結節点（駅・バス停）の空白地帯は少なく、公共交通の利便性は高いといえます。また、生活利便施設（スーパー、医療機関、公共施設など）が概ね居住地一帯に分布しており、住まいから容易にアクセスできる環境が整っています。

1 都島区の「いま」を分析する４つの視点

視点2 暮らしに選択肢を生む「まちの多様さ」

居住者属性・住宅形態・商店や働く場・公共空間が適度に混在する環境は、暮らしの選択肢を広げ、地域の活性化にもつながります。
都島区では、大規模な工場跡地などをうまく活用し、昔から生活の営みがある地域と新しいまちの調和をとりつつ、住まいと働く場のバランスが取れたまちづくりが進んできました。

かつての大規模工場地は大規模住宅地へ転換され、都市居住の魅力にあふれるまちが誕生
京橋は古くから交通の要衝として発展し、大阪のヒガシの玄関口に



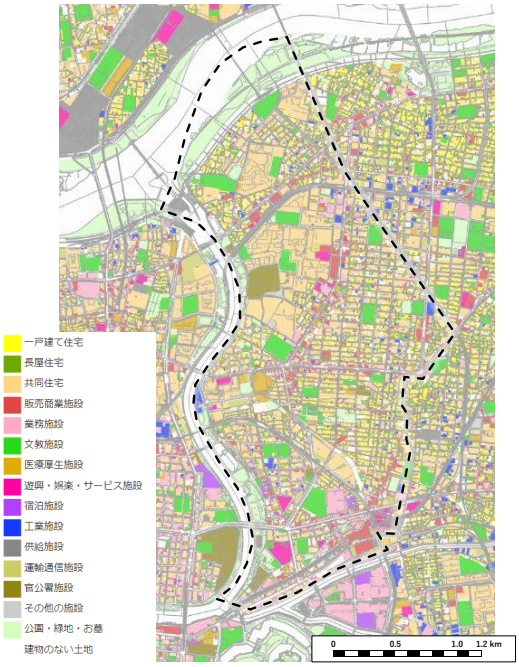
1928年頃　1961～75年頃　1984～90年頃　2013年頃～現在

都島区のまちの形成の歴史

1 都島区の「いま」を分析する４つの視点

視点2 暮らしに選択肢を生む「まちの多様さ」

南北に長く、各エリアで性格の異なる土地利用が特徴



都島区の土地利用
（出典：令和３年度土地利用現況（マップナビおおさか））

北部

工場跡地を活用した公営・民営の大規模高層住宅に加え、戸建て住宅や長屋が混在しています。淀川河川公園をはじめ、自然が豊かで公園が多い地域です。

中部

西側では大規模高層住宅が、東側では区画整理された街区に戸建て住宅・共同住宅・工業施設が混在しています。また、都島駅周辺や幹線道路沿いには商業・業務施設、医療施設等が集積しています。

南部

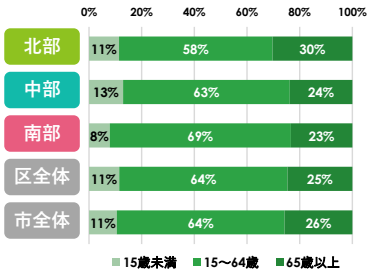
京橋駅を核に商業・業務施設が集積し、オフィスビルやショッピングモール・商店などが立ち並ぶ、繁華街的な土地利用が中心です。

1 都島区の「いま」を分析する４つの視点

視点2 暮らしに選択肢を生む「まちの多様さ」

ファミリーや単身が中心だが、エリアによって居住者層や住まい方に特徴がある

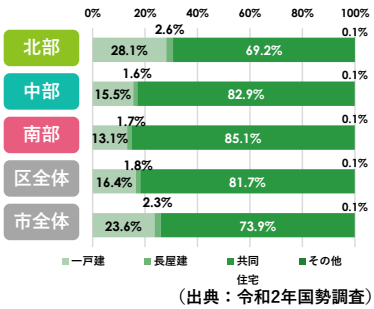
年代別人口



（出典：令和2年国勢調査）

北部エリアでは区内でも比較的高齢化が進んでいることがうかがえる一方、中部エリアは15歳未満人口が区内で最も多く大阪市平均を上回っています。南部エリアでは15～64歳人口が約7割を占めて現役世代の割合が高いことが特徴です。

住宅建て方

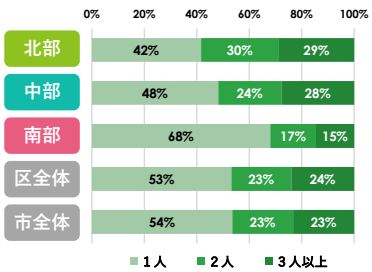


（出典：令和2年国勢調査）

北部エリアは一戸建てに住んでいる人の割合が区や市の平均よりも多いです。

中部・南部エリアでは共同住宅に住んでいる人の割合が多いことが特徴です。

世帯人員

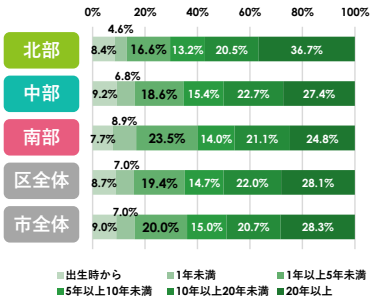


（出典：令和2年国勢調査）

北部・中部エリアでは2人・3人以上の世帯の割合が多くなっています。

南部エリアでは1人世帯が約7割と区や市の平均も大きく上回っており、年代別人口も踏まえると現役世代の単身世帯が多いことがうかがえます。

居住年数



（出典：令和2年国勢調査）

北部エリアでは20年以上居住している人が最も多く、10年以上住んでいる人が半数を超えます。

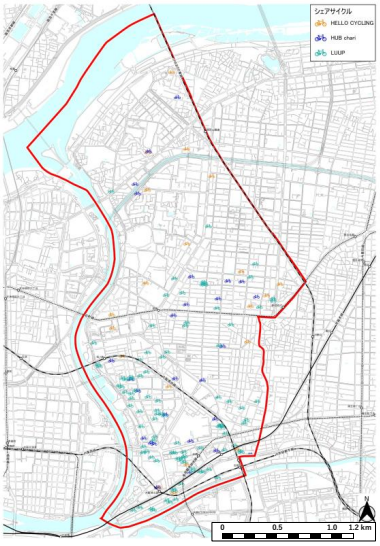
南部エリアでは居住して5年未満の人の割合が多いです。

1 都島区の「いま」を分析する４つの視点

視点3 都市の利便性を補う「サービスや情報へのアクセスの容易さ」

ICT（情報通信技術）等のテクノロジーの進展により、サービスや情報が都市の隅々まで行き渡り、人々の暮らしを支える環境が広がっています。これは、移動のしやすさや施設の近接性といった「物理的な利便性」を補完する要素であり、今後さらに重要性が高まると考えられます。都島区では、コミュニティサイクルやオンデマンドバス等のシェア型サービスの普及が進みつつある一方、利用しにくい地域が残っています。また、こうしたサービスは、特に高齢者などIT機器の利用に不慣れな人にとって、デジタルデバイド（情報格差）を生む可能性があります。

シェア型モビリティは一定普及しているが、利用しにくい地域も



シェア型モビリティポートは、都島通周辺を境に南部に多数集積。大規模な集合住宅には大規模ポートも見られます。

しかし、戸建て住宅の分布の多い既成市街地においては、ほとんど見られません。

シェア型モビリティポートの分布（出典：HELLO CYCLING、ドコモ・バイクシェア（HUBchari）、LUUPの各社ポートマップをもとに作成）

オンデマンドバスの実証実験が区内でスタート

都島区におけるオンデマンドバス実証実験
（出典：Osaka Metro オンデマンドバス公式ホームページ）

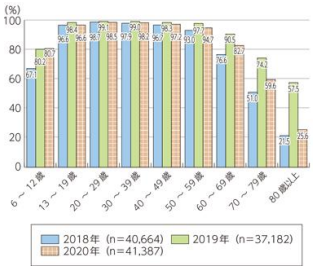
都島区では、2025年10月～2026年10月（1年間）、AIオンデマンド交通社会実験を実施しています。

AIオンデマンドバスは、アプリ等で予約を行い、予約に基づきシステムが自動生成した経路を運航するもので、きめ細かな効率的な交通手段の提供をめざしています。

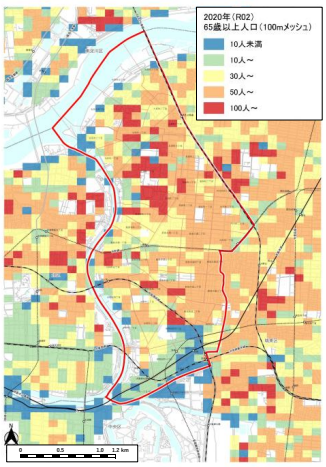
1 都島区の「いま」を分析する４つの視点

視点3 都市の利便性を補う「サービスや情報へのアクセスの容易さ」

特に高齢者の多い北部エリアでは、WEBサービスの普及に課題があると想定される



インターネットの利用率の傾向
（出典：総務省「通信利用動向調査」）



65歳以上人口（100mメッシュ）
（出典：令和2年度国勢調査）

総務省の調査によれば、全国的にインターネット利用率は高齢になるほど低下する傾向が見られます。

都島区北部は、高齢者の比率が高く、WEBサービスやアプリを前提としたサービスは普及しにくい可能性があります。

また、シェア型モビリティやオンデマンドバスは、需要がある一方で、専用アプリの操作やアカウント登録等、IT面のハードルが課題です。

区の情報を区内外に届ける発信力の強化

広報みやこじま

MIYAKOJIMA ひと×まち File

民間のYouTubeチャンネルによる発信
（都島区が後援）

都島区では、現在「広報みやこじま」やホームページ、SNSで区政情報の発信を行うとともに、都島区の地域資源（人・モノ・コト）をより多くの方々に知っていただくために、『MIYAKOJIMA ひと×まち File』を作成し、ホームページで公開しています。また、都島の情報を発信するYouTubeチャンネルが立ち上がるなど、民間でも情報発信が行われています。

引き続き、都島区が有する自然環境や歴史文化等の地域資源などの魅力情報を、区内外に届ける発信力の強化を図っていくことが必要です。

1 都島区の「いま」を分析する４つの視点

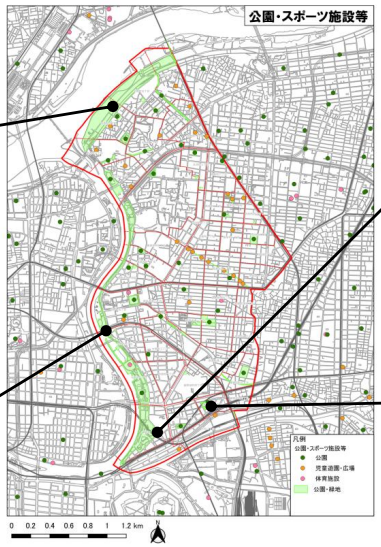
視点4 暮らしの質を高める愉しみの「豊富さ」

都市の中に、人と人との交流、自然、歴史・文化といった有機的な要素が、適度な「密度」で存在することで、都市に住む人々は豊かな生活を営むことができ、活気づくとされています。都島区においては、豊かな自然環境やコミュニティの場、サードプレイス、魅力的な人などの資源は豊富にある状況です。しかし、区民の普段の生活は、買い物や送り迎えなど「必要な行動」に時間を取られがちで、利用が限定的であったり、利用しやすい設えになっていなかったりするなど、これらのポテンシャルを活かしきれていない状況にあるといえます。

水辺や緑などの自然的空間や文化施設が身近に存在

淀川河川公園

毛馬桜之宮公園



公園・スポーツ施設の分布

藤田美術館

京橋公園

民間の緑

都島区は三方を川に囲まれ、淀川河川公園や毛馬桜之宮公園など、水辺空間が整備されています。

住宅地の中にも公園・児童遊園・広場等が点在し、集合住宅地における民間の緑が豊かなことも特徴です。

また、藤田美術館などの文化施設も立地しています。

1 都島区の「いま」を分析する４つの視点

視点4 暮らしの質を高める愉しみの「豊富さ」

まちのイベントは官民・大小を問わず幅広く実施されている

まちの風物詩となっているイベント

JR桜ノ宮駅周辺(半径0.5km)の歩行者数(18時～22時)

2025年７月25日（金）	約42,600人
上記以外の7月平日平均	約3,300人

データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に個人を特定できない処理を行って集計

日本三大祭りの一つである**「天神祭」**。大川では船渡御が行き交い、川沿いには屋台が立ち並び、区内外から多くの人が訪れます。

「都島区民まつり」は50回以上続く区の代表的イベント。地域活動協議会、商店会、民間事業者など多様な主体が参加し、子どもから大人まであらゆる世代が楽しめます。

関西でも有数の規模を誇る**「なにわ淀川花火大会」**。毛馬閘門（こうもん）や淀川河川公園では花火を鑑賞することができます。

1 都島区の「いま」を分析する４つの視点

視点4 暮らしの質を高める愉しみの「豊富さ」

まちのイベントは官民・大小を問わず幅広く実施されている

日常を彩るまちのイベント

大阪市内で唯一の人工の砂浜である「桜ノ宮ビーチ」を活用した**「桜ノ宮ビーチフェス」**。多様な水辺アクティビティを通じて、地域の方々に水辺への関心や愛着を持っていただくことをめざしています。

NPO法人mamaコムの**「mamaコムマルシェ」**や**「ママパラダイス」**は、ママと地域がつながり、安心して子育てできる街を育てるための交流イベントです。

大東商店街に新たにオープンしたカフェ＆シェア型書店**「まちたねcafe&books」**では、お菓子作り教室やお絵描きワークショップ等の、自分時間を彩る小さなイベントが定期的に開催されています。

1 都島区の「いま」を分析する４つの視点

視点4 暮らしの質を高める愉しみの「豊富さ」

まちのイベントは官民・大小を問わず幅広く実施されている

都島区の魅力を発見・発掘するイベント

都島の素敵な人・場所・モノを音楽とともに紹介する「都島チャンネル」主催の**「都島チャンネル文化フェス2024」**では、都島区出身・在住等のアーティストによる音楽、落語、アートがコラボしたステージが展開されました。

都島駅近くの桜通商店街では、商店街の活性化をめざし、都島区および周辺の個性豊かな店舗が集まり、飲食や雑貨、体験を楽しめるイベント**「桜通祭」**が開催されました。

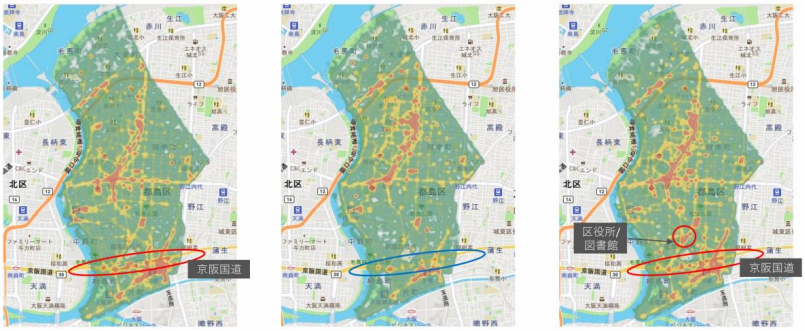
京橋エリアにおいても、商店会連盟主催の**「京橋食天国」**や、大阪商工会議所主催の**「京橋オススメ体験」**など、食や体験を通した魅力発信イベントが開催されています。

1 都島区の「いま」を分析する４つの視点

視点4 暮らしの質を高める愉しみの「豊富さ」

まちの資源や活動が豊富にある一方で、利用は限定的

現役世代（20~50代）男性　現役世代（20~50代）女性　シニア世代（60代以上）男女

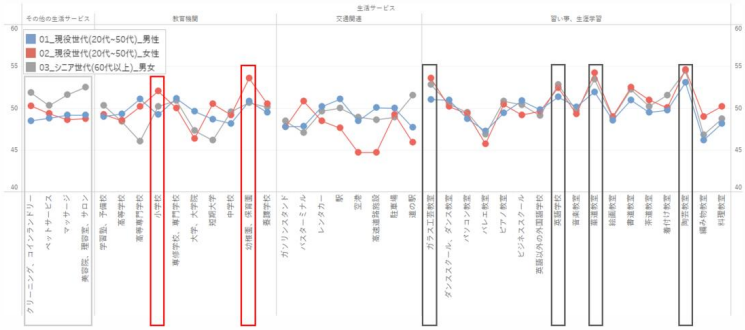


区民の来訪動向（人流データ）

都島区民の来訪動向を見ると、淀川河川沿いへの滞在が少ないことが分かります。

現役世代（20～50代）女性は都島駅周辺や幹線道路沿い（都島本通・ベルファ周辺）での滞在が多い一方、男性やシニア世代は京橋エリアにも多く分布していることが分かります。

現役世代（20～50代）の女性は、小学校・幼稚園・保育園や、スーパーでの滞在が多く見られます。



区民の行動の傾向（人流データ）

都島区民の行動の傾向（区内外に関わらず、よく訪れる場所）を見ると、工芸教室、英語や書道、陶芸などの文化的な習い事によく行っていることが分かります。

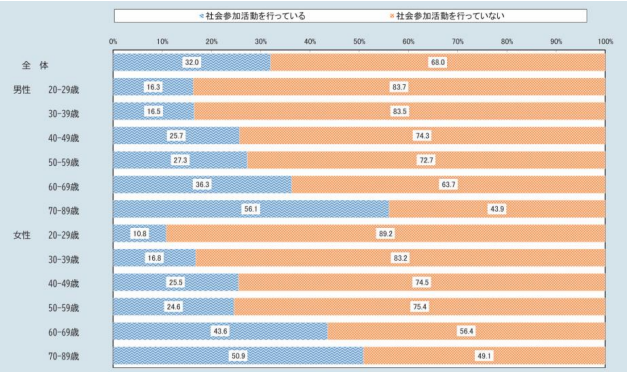
現役世代（20～50代）の女性は、小学校・幼稚園・保育園への来訪が多く、主に子どもの送迎や各種行事への参加が多いと推察されます。

特に子育てや仕事をしている世代の女性は、日常的に買い物や子どもの送り迎えなどに忙しくしている様子がうかがえます。

1 都島区の「いま」を分析する４つの視点

視点4 暮らしの質を高める愉しみの「豊富さ」

全国的には、年齢が低くなるほど社会参加活動への参加は低くなる傾向にある



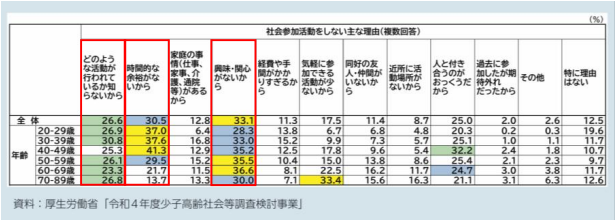
資料：厚生労働省「令和４年度少子高齢社会等調査検討事業」

年齢と社会参加活動の参加状況
（出典：厚生労働省，「令和5年版厚生労働白書（令和4年度厚生労働行政年次報告）―つながり・支え合いのある地域共生社会」）

厚生労働省の調査によると、男女とも、概ね年齢が高くなるほど、社会参加活動を行っている人の割合は高くなっています。

一方で、20代・30代は、男女ともに参加割合が20％以下となっています。また、40代・50代についても参加割合が25％前後となっており、現役世代（20～50代）の7割以上は社会参加活動に参加していないことが分かります。

その理由は、興味・関心がないことのほかに、時間的な余裕がないことや活動を知らないことがある



(%)

		社会参加活動をしない主な理由(複数回答)											
		どのような活動が行われているか知らないから	時間的な余裕がないから	家庭の事情(仕事、家事、介護、通院等)があるから	興味・関心がないから	経費や手間がかかりすぎるから	気軽に参加できる活動が少ないから	同好の友人・仲間がいないから	近所に活動場所がないから	人と付き合うのがおっくうだから	過去に参加したが期待外れだったから	その他	特に理由はない
全体		26.6	30.5	12.8	33.1	11.3	17.5	11.4	8.7	25.0	2.0	2.6	12.5
年齢	20-29歳	26.9	37.0	6.4	28.3	13.8	6.7	6.8	4.8	20.3	0.2	0.3	19.6
	30-39歳	30.8	37.6	16.8	33.0	15.2	9.9	7.3	5.7	25.1	1.0	1.1	11.7
	40-49歳	25.3	41.3	12.9	35.2	12.5	17.8	9.6	5.4	32.2	2.4	1.8	10.7
	50-59歳	26.1	29.5	15.2	35.5	10.4	15.0	13.8	8.6	25.4	2.1	2.3	9.7
	60-69歳	23.3	21.7	11.5	36.6	8.1	22.5	16.2	11.7	24.7	3.0	3.8	11.7
	70-89歳	26.8	13.7	13.3	30.0	7.1	33.4	15.6	16.3	21.1	3.1	6.3	12.6

資料：厚生労働省「令和４年度少子高齢社会等調査検討事業」

社会参加活動をしない主な理由
（出典：厚生労働省，「令和5年版厚生労働白書（令和4年度厚生労働行政年次報告）―つながり・支え合いのある地域共生社会」）

社会参加活動を行わない理由は、「興味・関心がないから」（33.1％）、「時間的な余裕がないから」（30.5％）、「どのような活動が行われているか知らないから」（26.6％）、「人と付き合うのがおっくうだから」などが上位を占めています。

全国的な傾向ではあるものの、都島区においても、次世代のコミュニティ形成や地域の担い手となり得る世代を中心に、地域とのつながりが希薄化していることが懸念されます。

2 みんなに聞いてみた都島区の魅力　【まちの人たちの声】

都島区まちづくりビジョン2040の作成にあたり、都島区内で活躍するまちづくりのプレイヤーへのインタビューや、区内で開催したワークショップでの意見交換を通して、都島区の魅力など想いを語っていただきました。

水辺や緑などの自然資源はもっと活かしていくべき

- 都島区らしさを活かすカギは「川」と「緑」。
- 桜並木や公園、三方の河川など、日常の風景として自然が身近にある。
- 大川沿いは自然が豊かで、運動・健康の場として魅力が高い。
- ランニングやサイクリングなど、健康・アクティビティと相性が良い。都島区の魅力としてもっとPRできる伸びしろがある。
- 大川沿いや淀川河川公園など親水空間が多い。

独立開業などにチャレンジしやすい土壌がある

- 天満などよりも家賃が比較的低く、独立開業に挑戦しやすい。
- 地域内消費が課題。

京橋はヒガシの「ハブ」になるポテンシャルがある

- 大阪城公園・公立大・大阪ビジネスパーク（OBP）が近く、各エリアをつなぐ拠点になれる。
- 国内外から集客しやすいポテンシャル。
- 「乗り換え・通過点」になりがちで、滞在の仕掛けが弱い。
- 京橋公園は、ファミリーや京橋初心者でも楽しめる場所になるポテンシャルがある。

住環境の良さはやはり大きな魅力

- 住環境が良く、転入して来る人も多い。世代交代しながら「選ばれ続ける区」になることが理想。
- 長く住み続けている人も多い。結婚・子育てのタイミングで都島区に戻ってくることも。
- 南北に長く地域ごとに個性がある。
- 南北の交通利便性がやや低いことが課題。
- ベビーカーが入れるところや子どもが遊べるところが限られている。

区の魅力や資源を発信する仕組みを強化する必要がある

- 都島区には「ポテンシャルのある場所」と「潜在的なパワーを持った人」が多いと感じる。どうやって発掘していくかが重要。
- まち全体での情報収集・発信の場づくりが課題。

2 みんなに聞いてみた都島区の魅力　【民間事業者の声】

都島区に関わる民間事業者の方々に、区の魅力や今後の可能性についてお話を伺いました。

回遊・体験型のまちづくり

- 京橋駅とOBP、コムズガーデン周辺をつなぐ動線形成が重要であり、回遊性を高める空間整備が必要
- 中之島のような歩いて楽しめる都市体験を参考にした空間形成の検討が必要

地域資源・遊休空間の活用可能性

- 都島区を面で捉えて、エリアごとに際立たせる機能を持たせるという視点も大切
- 区内に大規模な遊休地は少ないが、既存ストックや小規模な空間の活用可能性を検討する必要がある
- 中部から北部にかけての大きなマンション群で、近隣のマンションとの連携も検討したい

京橋エリアの広域拠点化と駅周辺価値の高度化

- 京橋駅は安心安全で、行きたくなるお店のある、若者にも降りてもらえる駅にすることが必要
- 京都からの玄関口としての歴史的背景など、エリアのアイデンティティを再定義する必要がある
- 東西軸における東の拠点であり、その個性を伸ばす取組が必要
- 鉄道事業者との連携による駅周辺の価値向上や都市再生の展開が重要

健康・Well-being（ウェルビーイング）に資する空間整備

- 高齢化やフレイル対策を踏まえ、健康志向の活動を支える空間整備が必要
- 団地内外の空間を活用し、こども食堂や地域イベントなど、住民の交流や社会参加を促す場づくりが可能
- 新しい住民と古くからの住民の関係性が大切。まちぐるみのつながりは子育てにとってもプラスになる

交通・モビリティ環境の改善

- 東西方向は充実している一方で、南北方向や鉄道空白地帯の移動利便性に課題がある
- 地上とデッキの使い分けを含め、人の流れを最適化する動線計画の検討が必要

データ活用を前提とした都市基盤整備

- 人流データ等を活用し、民意や利用実態を踏まえた空間整備を行う必要がある
- ICTを活用したスマートシティ的要素を取り入れた都市基盤の導入可能性がある
- マンション内にとどまらず、周辺地域への情報提供やデータ連携の可能性がある

2 みんなに聞いてみた都島区の魅力　【有識者の声】

都島区内で実施したまちあるきプログラムやヒアリングを通じて、有識者の方々から、都島区の魅力や今後伸ばしていくべき点についてお話を伺いました。

■わたしたちの生きた建築発見プログラム

大阪市では、「生きた建築ミュージアム事業」の一環として、参加者が講師とともにまちを歩き、感じた魅力を共有する市民参加型のエリア調査「わたしたちの生きた建築発見プログラム」を実施しています。

2025年度（第5回）は都島区高倉町周辺でまちあるきを行い、多様な地域の魅力が参加者の視点で共有されました。

【詳しくはこちら】
大阪市生きた建築ミュージアム事業について
（https://www.city.osaka.lg.jp/toshiseibi/page/0000222838.html）

講師の先生方のコメント

戦前から現代までの住まいが混在する都島区では、住宅の変遷を通して**都市の歴史や暮らしの多様性**を読み取れます。

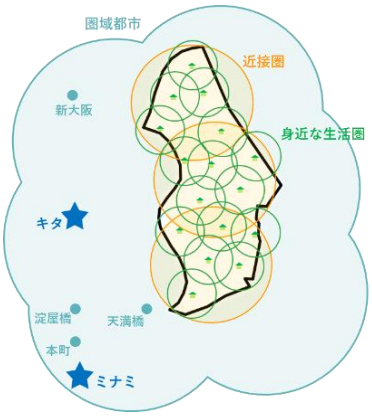
都島区は都心に近い立地にありながら、古い木造長屋から高層の団地まで、多様な建築が現役で使われていて、**さまざまな暮らし方を許容する非常に魅力的なエリア**だと感じました。

■専門家へのヒアリング

本ビジョンの検討にあたり、都市計画・まちづくりの専門家にお話を伺いました。

都島区の最大の魅力は、都心へも15分でアクセスできる「**圏域都市**」としての側面、区内の各拠点が持つ「**近接圏**」としての側面、そして「**身近な生活圏**」としての側面という、**多層的なレイヤーが重なっている**点にあります。

都島区内にとどまらず、**都島区の外側にも目を向けた「住みやすいまち」**としての魅力、**その多層的なアクセス性こそが「都島区版15分都市」**ではないでしょうか？



3 その他、区内で特筆すべきまちづくりのうごき

京橋エリア

京橋エリアを含む大阪城公園周辺地域は、「大阪のまちづくりグランドデザイン」において、国際観光拠点に位置づけられています。
また、都市再生緊急整備地域に指定されており、2025年5月には「大阪城公園周辺地域まちづくり方針」が策定されました。
2025年12月には、大阪城公園周辺地域イノベーションプラットフォームが設立されるなど、方針に基づく取組が進められています。

まちづくり方針策定の経緯

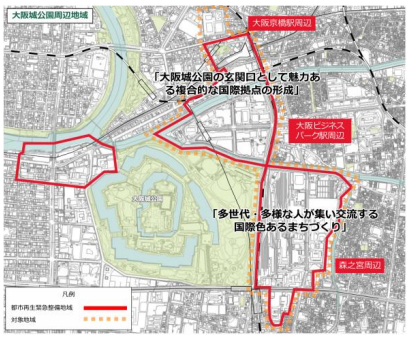
- 令和4年策定の大阪のまちづくりグランドデザインでは、まちづくりの戦略として、大阪城の周辺について、国際的な観光・文化・学術・産業の融合エリアの形成をめざすことを示した
- 大阪城公園周辺地域を東西軸の新たなヒガシの拠点と位置づけ、更なる国際競争力の向上に向け、にぎわいの創出や、ビジネス環境の充実等といった観点から、３つのエリアを一体としてとらえたまちづくりを推めることが必要
- 事業者、行政など街づくりに関わる関係者の共通指針となるよう方針を策定

まちづくり方針の対象地域と位置づけ

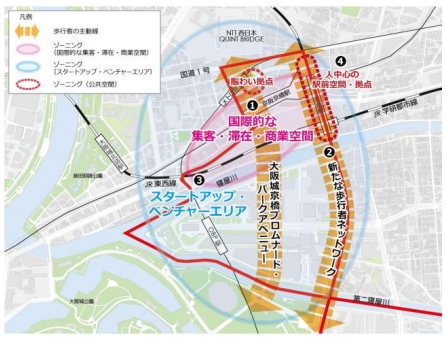
- 都市再生緊急整備地域に指定されている大阪城公園周辺地域のうち、「大阪京橋駅周辺」、「大阪ビジネスパーク駅周辺」、「森之宮周辺」の３つのエリアを中心とした右の図に示す範囲を対象地域とする
- まちづくりの具体化を踏まえ、大阪城公園周辺地域が一体となったまちづくりを進めるため、まちづくりの目標や土地利用の方針、基盤整備の方針を示すもの

まちづくりの目標

目標１： インバウンドを含めた観光客を呼び込む「国際観光拠点の強化」	目標２： ICTを軸にした「国際的なイノベーション拠点の形成や国際人材の受入環境の整備」	目標３： 「人・モノ・情報の交流の促進」
国際的な集客・滞在・商業空間の導入等エリア内施設における効果的なプロモーションなどを図り、大阪城公園の観光客を地域内でより一層、回遊・滞在させることで拠点強化を図る	NTT西日本のオープンイノベーション施設「QUINT　BRIDGE」や大阪公立大学など立地を活かし産学官の連携を図り、国際性・多様性のある人材等やアイデアの循環・交流によりイノベーションを創出するために、プラットフォームを設置	地域分断の解消や駅機能の集約化等に伴う利便性向上をめざし道路ネットワーク・交通結節点の強化を図るとともに、人中心の空間として歩行者ネットワークの構築等を図る



大阪城公園周辺地域位置図



土地利用の方針

基盤整備の方針

出典：大阪城公園周辺地域まちづくり方針

3 その他、区内で特筆すべきまちづくりのうごき

淀川舟運活性化

2025年の大阪・関西万博の開催決定を契機に2021年度から整備が進められてきた淀川ゲートウェイが、2025年3月から通航可能となり、2026年3月に完成しました。防災や公共工事での活用や観光利用等も含め、さらなる舟運の活性化が期待されています。

淀川ゲートウェイ・淀川大堰
（写真、資料提供：国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所）

毛馬船着場から万博会場までの船の航行（2025年10月）
（写真、資料提供：国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所）

淀川ゲートウェイ完成記念クルーズ（2026年３月）
（資料提供：国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所）

4 都島区の特徴と魅力

本章の調査内容をもとに、都島区の特徴と魅力をまとめました。

【水辺】

区の北側の淀川河川公園には、広大な自然や空間があって、いろんなことができそうだね。

特に、区の北部や中部の西側では、水辺と緑を日常的に感じられるね。

大川沿いの毛馬桜之宮公園は、遊歩道やビーチなどもあって豊かな親水空間が広がっているね！

【京橋エリア】

藤田美術館や藤田邸跡公園、京橋駅周辺の飲食店など、歴史・文化からにぎわいまで地域資源の幅が広いね。

南部エリアは京橋駅を核に商業・業務機能が集積していて、区内外から人が集まる“都島区の玄関口”みたいな場所だね。

【まちなか】

北部は都島区の中では高齢化が進んでいて、戸建てや長屋が多い地域でもあるね。

西側は大規模な共同住宅が多く、東側は戸建て中心の落ち着いた住宅地が広がっているね。

大規模共同住宅の敷地内の緑もあって、意外と緑量がしっかりあるのがポイントだね。

中部エリアは、都島駅や幹線道路沿いを中心に、スーパーや医療など生活利便施設がまとまっていて暮らしやすそうだね。

【まち全体】

区の魅力や資源を発信する仕組みの強化が必要だね。

都島区は交通の便が良くて優良な住環境があるから、地域資源や魅力をまだまだ活かせそう！

Chapter3

めざしたい都島区の2040年の姿

Summary

都島区のまちづくりで大切にしたい考え方

2040年に向けて大切にしたい考え方

- ①暮らしの基盤の維持・アップデート
- ②つながりと連携を感じられる地域社会づくり
- ③クリエイティブに暮らしを変えていくマインド

まちづくりのコンセプト・生み出したいまちの姿

まちづくりのコンセプト

Meetable Town みやこじま
～都島区版 15分都市～

- 会いたいと思える人にすぐ会えるまち
- 訪れたい場所が近くにあるまち
- 参加したい活動に気軽に参加できるまち

暮らしを豊かにする“出会いたい”ものに“出会える”まち「Meetable Town（ミータブル タウン）」をめざします。

2040年に生み出したいまちの状況

Meetableな「暮らし」	Meetableな「コミュニティ」	Meetableな「働き方」
自然と文化が根付き充実感に満ち暮らせるまち	多様なプレイスで人がつながるまち	共創やチャレンジが生まれるまち

1 都島区のまちづくりで大切にしたい考え方

Chapter 1 ～ 2 で整理した内容を踏まえて、2040年に向けて、都島区のまちづくりを進めるうえで大切にしたい考え方をまとめました。

- 世界のまちづくりの動き
- 都島区を取り巻くまちづくりの動き
- 都島区の「いま」
  - 「都市の便利さ」の視点
  - 「まちの多様さ」の視点
  - 「サービスや情報へのアクセスの容易さ」の視点
  - 「愉しみの豊富さ」の視点
- まちの人たちの声（区民/団体/企業/有識者）

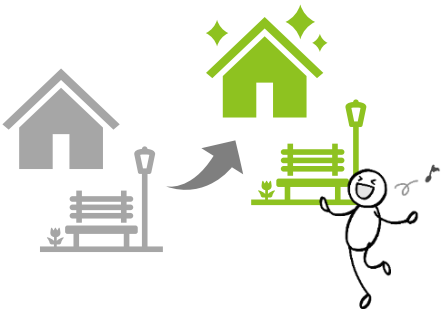
2040年に向けて大切にしたい考え方

- ①暮らしの基盤の維持・アップデート
- ②つながりと連携を感じられる地域社会づくり
- ③クリエイティブに暮らしを変えていくマインド

1 都島区のまちづくりで大切にしたい考え方

①暮らしの基盤の維持・アップデート

- 都島区は空いている土地に建物を建てるなどの開発は概ね完了し、成熟したまちですが、上位計画関連の都市計画変更など段階を経て、より良い生活環境へ整備が進んでいくことが期待されます。
- 古くなったものをより良くして、既存の建物や施設をうまく利用したり、建物の更新のタイミングをうまくとらえたりしながら、都島区の特徴と魅力を今後も引き継ぎながらアップデートしていくことが大切です。
- 利用されていない魅力資源の課題を解消して、利活用しやすくすることも必要です。



②つながりと連携を感じられる地域社会づくり

- 都島区には、すでに多様なプレイスやサービスがあり、日々新たな取組も生まれています。一方で、そうした情報に気づいていない（知らない）人も多いのが現状です。
- 身近なまちのさまざまな情報にアクセスしやすい仕組みを整え、より便利で豊かな暮らしをつくっていくことが大切です。

③クリエイティブに暮らしを変えていくマインド

- 豊かな自然環境やコミュニティの場、サードプレイスといった今ある資源の魅力をさらに高めるためには、これら資源に積極的に「関わる」ことが大切です。
- 区民の皆さんや関わる人々の知恵を集結させ、アイデアでまちを変えていく創造的なまちづくりが求められます。

2 まちづくりのコンセプト

Meetable Town
みやこじま
～都島区版 15分都市～

- **会いたいと思える人にすぐ会えるまち**
  魅力的なもの・こと・ひとが、身近にある（いる）だけじゃなく、真に利用したいサービスを享受できる。
- **訪れたい場所が近くにあるまち**
  暮らしを変えるかもしれない便利な・考え方を変えるかもしれない刺激的な情報に触れることができる。
- **参加したい活動に気軽に参加できるまち**
  活躍するあの人と同じ目線で話すことができる。
  魅力的なあの場所に気軽に訪れることができる。

暮らしを豊かにする“出会いたい”ものに“出会える”まち
「Meetable（ミータブル） Town（タウン）」をめざします。

3 “Meetable（ミータブル） Town（タウン）”の先に生み出したいまちの姿

まちが“Meetable（ミータブル）”な状態になることで、またその過程を通して、都島区はどうなるのでしょうか。
私たちの身の回りを取り巻く「暮らし」「コミュニティ」「働き方」の３つの視点に基づいて、生み出したいまちの状況を描きます。

まちづくりのコンセプト

Meetable Town みやこじま

2040年に生み出したいまちの状況

Meetableな「暮らし」

自然と文化が根付き充実感に満ち暮らせるまち

公園や水辺などの自然を暮らしの中で身近に感じながら、心地よく過ごせるまちをめざします。
また、新しい文化や楽しみが生まれ続け、日々の暮らしが彩られるまちをめざします。

Meetableな「コミュニティ」

多様なプレイスで人がつながるまち

気軽にアクセスできる場所（プレイス）が点在し、そこをきっかけに、だれもがさまざまな人やコミュニティと関わる機会を持てるまちをめざします。

Meetableな「働き方」

共創やチャレンジが生まれるまち

個人・中小企業・大企業を問わず、多様な立場の人たちでコミュニケーションをとることができ、新たなチャレンジが生まれる。さらには、地域の課題解決等にもつながる状況をめざします。

4 描きたいまちのシーン

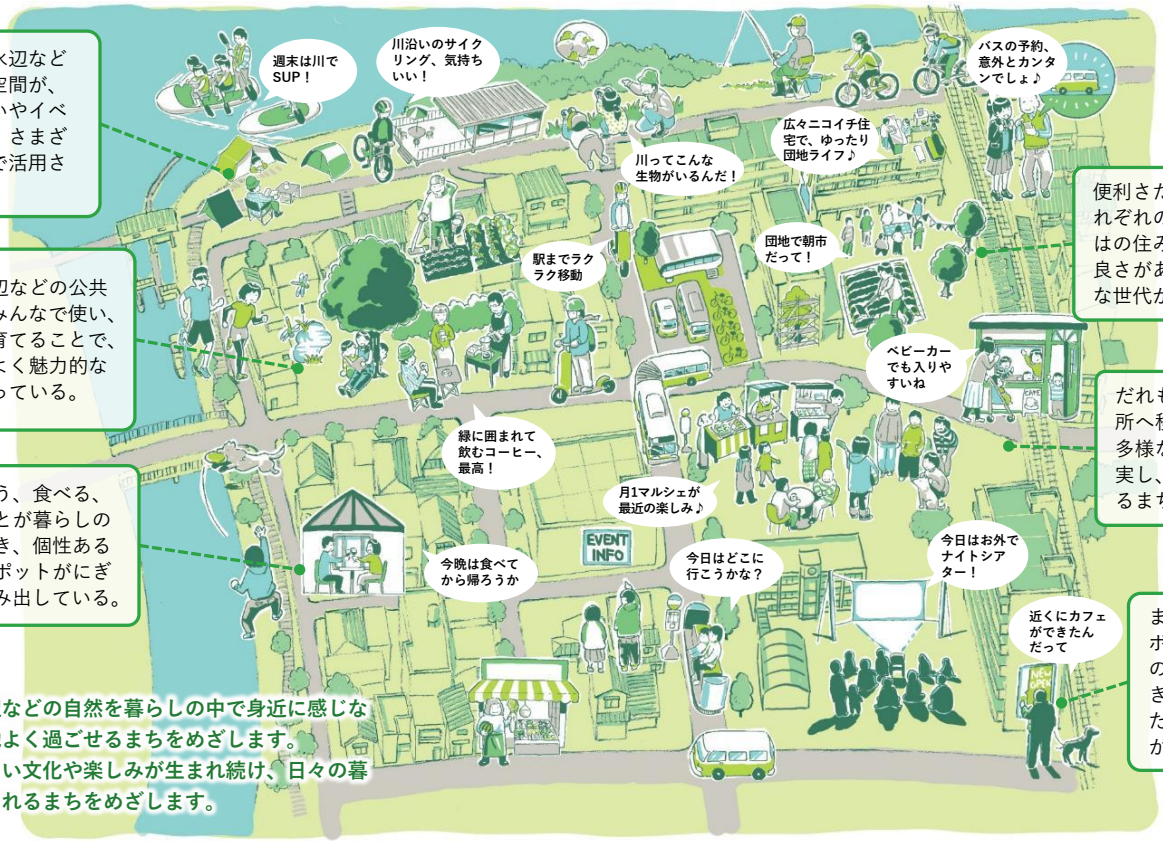
区民や民間事業者からの声を盛り込み、2040年に生み出したいまちの状況を可視化しました。

Meetable（ミータブル）な「暮らし」 自然と文化が根付き充実感に満ち暮らせるまち

みどりや水辺などの身近な空間が、日々の憩いやイベントなど、さまざまな場面で活用されている。

公園や水辺などの公共空間は、みんなで使い、関わり、育てることで、より心地よく魅力的な場へと育っている。

地元で買う、食べる、楽しむことが暮らしの中に根付き、個性あるお店やスポットがにぎわいを生み出している。



便利さだけでなく、それぞれのエリアならではの住みやすさや心地良さがあり、さまざまな世代が暮らしている。

だれもが行きたい場所へ移動しやすく、多様な交通手段が充実し、歩いて楽しめるまちになっている。

まちの魅力的なスポットやイベントの情報が身近に届き、まちに出かけたくなるきっかけが生まれている。

公園や水辺などの自然を暮らしの中で身近に感じながら、心地よく過ごせるまちをめざします。また、新しい文化や楽しみが生まれ続け、日々の暮らしが彩られるまちをめざします。

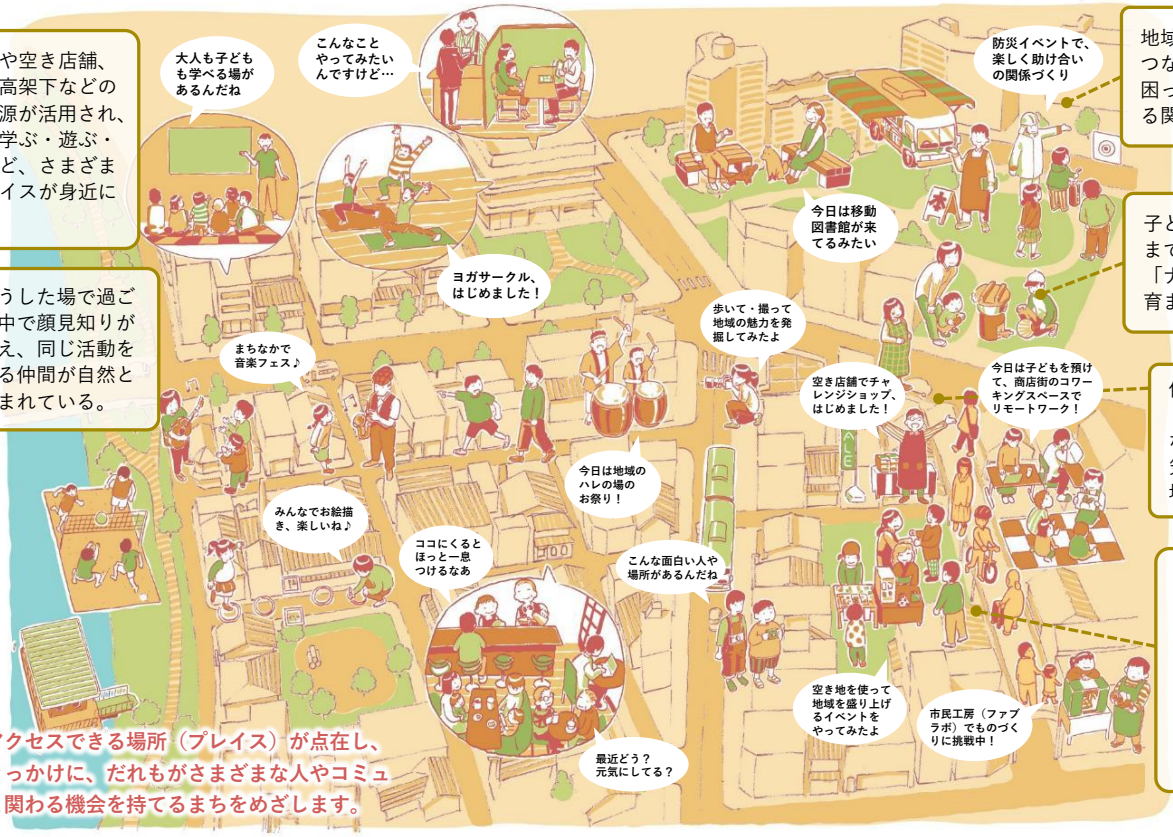
4 描きたいまちのシーン

区民や民間事業者からの声を盛り込み、2040年に生み出したいまちの状況を可視化しました。

Meetable（ミータブル）な「コミュニティ」 多様なプレイスで人がつながるまち

空き家や空き店舗、公園、高架下などの地域資源が活用され、働く・学ぶ・遊ぶ・集うなど、さまざまなプレイスが身近にある。

そうした場で過ごす中で顔見知りが増え、同じ活動をする仲間が自然と生まれている。



地域の中でゆるやかなつながりが生まれ、困ったときに助け合える関係が広がっている。

子どもからお年寄りまで、世代を越えた「ナナメの関係」が育まれる場がある。

何かにチャレンジしたい人が、小さなトライアルから気軽に始められる場や仕組みがある。

区役所や先輩区民、地域のみんなと協力しながらチャレンジを続けることで、新しい活動が次々と生まれている。

気軽にアクセスできる場所（プレイス）が点在し、そこをきっかけに、だれもがさまざまな人やコミュニティと関わる機会を持てるまちをめざします。

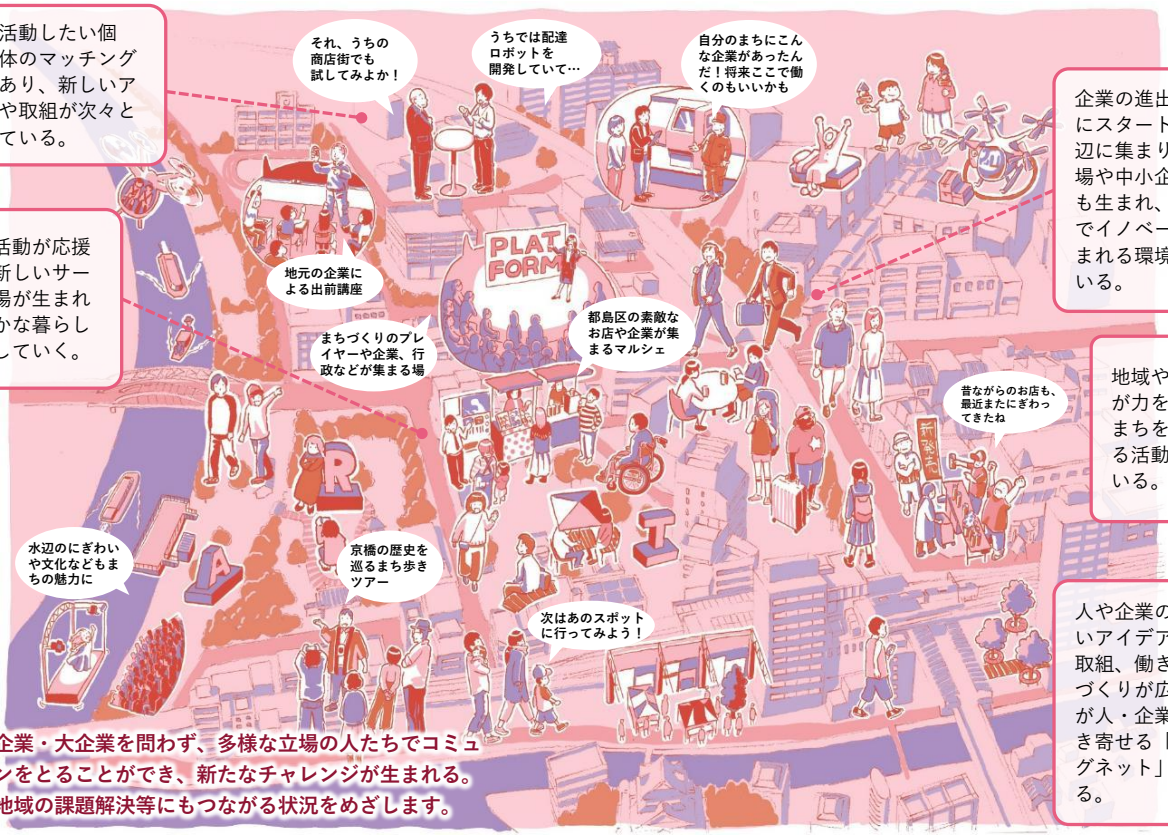
4 描きたいまちのシーン

区民や民間事業者からの声を盛り込み、2040年に生み出したいまちの状況を可視化しました。

Meetable（ミータブル）な「働き方」　共創やチャレンジが生まれるまち

企業と活動したい個人・団体のマッチングの場があり、新しいアイデアや取組が次々と生まれている。

区民の活動が応援され、新しいサービスや場が生まれて、豊かな暮らしが充実していく。



企業の進出をきっかけにスタートアップが周辺に集まり、地域の工場や中小企業との協業も生まれ、都島区全体でイノベーションが生まれる環境が広がっている。

地域や企業、行政が力を合わせて、まちをより良くする活動が広がっている。

人や企業の交流、新しいアイデアを生み出す取組、働きやすい環境づくりが広がり、京橋が人・企業・挑戦を引き寄せる「ヒガシのマグネット」となっている。

個人・中小企業・大企業を問わず、多様な立場の人たちでコミュニケーションをとることができ、新たなチャレンジが生まれる。さらには、地域の課題解決等にもつながる状況をめざします。

COLUMN（コラム）　みんなで考えた「2040年の都島区」

区内の4か所で開催した「都島ミライMEETING」やキーパーソンへのインタビュー等で、未来の都島区を担う区民の皆さんに「未来の都島区がどんなまちになったらいいか？」「どんなことができたらうれしいか？」を語っていただきました。

自然を楽しむ

- ビオトープをつくりたい
- 淀川の橋から夕焼けを見るイベント
- ウォーキングイベント
- 花火がしたい
- だれでも参加できるフォークダンス

新しいつながりが生まれる

- 高齢者を受け入れる体制や高齢者が来やすい環境づくり
- 若者と高齢者が交流できる場所
- ご近所つながりで子育てや介護
- ママさんが活躍するマルシェ
- 区民×企業×団体をつないで、まちフェス
- 商店街同士でまちなかバル

イベントで賑わう

- 朝市をしたい
- 子どもから大人まで参加できるようなマラソン大会の開催
- 夜に音楽を演奏しながら、飲食をして楽しめるようなイベント
- 高齢者が若者を案内する「京橋ディープツアー」と若者が高齢者を案内する「マルシェツアー」の開催

学びを受け取れる

- 知的好奇心を満たすような場がほしい
- 大人も子どもも学び合えるような環境
- 大人と子どもがコミュニケーションをとれる場所
- PBL（課題解決型学習）

音楽や文化をゆっくり楽しむ

- コーヒーを楽しめるカフェ
- 映画の上映会
- 移動図書館
- 路上ライブ
- ローカルの歌を集めてイベント
- 都島の写真展
- 盆踊りやサマーフェス

商店街を活用する

- シャッターにお絵描き
- 直線の通りを活かして流しそうめん
- 地域対抗モルック大会、綱引き大会、大食い大会
- 色々な国の飲食店でアフター万博の開催
- ランタン祭り、3Dマッピング、キャンドルナイトなど、暗さを活かしたイベント
- アーケードを全力で走る

子育てがしやすく、子どもが安心して楽しめる

- 子どもたちと絵を描くイベントをしたい
- サッカーなど、ボール遊びがしたい
- マンションの１階部分のテナントで子ども向けイベント
- 子どもと大人の居場所がほしい（コミュニティカフェ・シネマ）
- 気軽にベビーカーで入れて、子どもが遊んでいられる場所
- ママ経験のある人や保育士さんとかに色々相談したい

都島区民まつりと「京橋にぎわいマルシェ」で、来場者に都島区の地図に“お気に入りの場所”のシールを貼ってもらいました。

まちづくりのコンセプトを踏まえて、取り組みたいこと

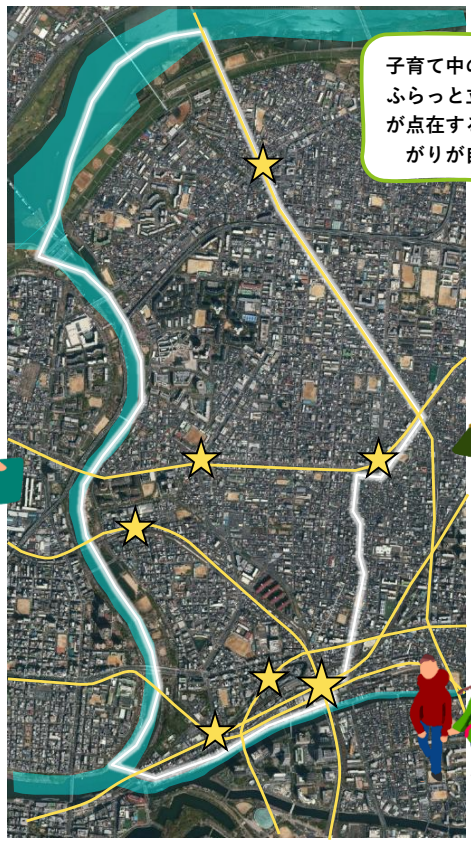
水辺で・・・

淀川・大川の水辺と緑を活かして、散歩やラン、サイクリング、デイキャンプみたいな過ごし方が日常に根付くと、都心に近いのにWell-being（ウェルビーイング）に暮らせるまちになりそうだね。

まちなかの緑や水辺を、眺めるだけじゃなくて使いこなせるようになると、暮らしの充実感がぐっと上がるんじゃないかな？

京橋エリアで・・・

京橋は民間事業者や商業、人の流れが集まっているから、スタートアップや中小企業、地域プレイヤーが混ざり合う“共創のハブ”になれる余地が大きいと思う。



まちなかで・・・

子育て中の人も含めて、色々な人がふらっと立ち寄れる“小さな居場所”が点在すると、ヨコやナナメのつながりが自然に生まれそうだね。

生活利便性が高いまちだからこそ、日常の中に小さなマーケットや展示、音楽みたいな文化が入り込むと、まちの彩りが増えそうだね。

駅前や商店街、公園、文化資源をうまくつないで回遊を生むと、点のにぎわいが面に広がって、エリア全体の魅力が底上げされそうだね。

まち全体で・・・

地域の資源や魅力をもっと“見える化”して発信できると、「ここに住みたい」と思う人を増やすきっかけにもなりそう。

Chapter4

ビジョンの実現に向けたアプローチ

ビジョンを活かすべき機会と各主体の役割

区民一人ひとり
○今の暮らしに少しの変化を得たいとき

民間事業者
○新しい事業を検討するとき
○開発事業など不動産を活用しようとするとき

地域団体
○従来の取組の継続が難しくなったとき
○新たな取組を検討しようとするとき

【役割】
・ビジョンの実現に向けて、活動・事業を展開します
・区内個別のエリアのまちづくりが具体化する際は、本ビジョンに整合しつつ、より解像度の高いエリア・ビジョンを策定するなど目標を共有します

連携・応援

行政（市・区）
○新たな施策を立案するとき
○立案した制度の運用や、具体的な事業内容を検討するとき

【役割】
・ビジョンの実現に向けて各種施策・事業を展開
・都島区役所と大阪市各局の連携

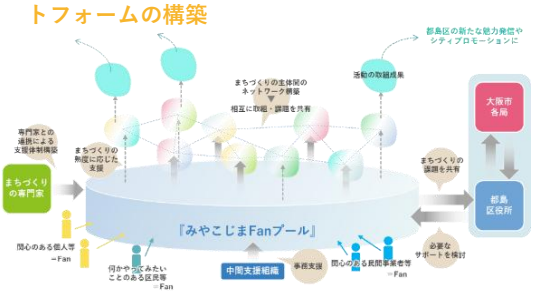
ビジョンの実現に向けた取組の方向性

①まちづくりのステップに応じた取組支援

都島区役所は、市役所や関連団体と連携しながら、皆さんのまちづくりを応援していきます。

みんなの取組	区の応援
発意する／やってみる	スタートアップ支援 ・人材掘り起こし、情報支援等
つながる／仲間をつくる	ステップアップ支援 ・エリアPF構築支援 等
共有する	コンセンサス支援 ・エリアビジョン策定支援 等
ことをなす	ローンチング支援 ・制度や公共空間活用支援 等

②区民のまちづくりを応援する区内まちづくりプラットフォームの構築



区民の「やってみたい」という意向をくみ取り、具体化していくためのサポートを図る区内まちづくりプラットフォーム（**みやこじまFanプール**）の構築を図ります。

③まちづくりのパイロット・プロジェクトの構築

まちづくりの先導的なモデルとなる取組を立ち上げ、活動の拡大と持続可能な運営体制の構築を進めます。

ターゲット・エリア
京橋エリア｜Green Oasis Miyakojima in京橋（グリーン オアシス ミヤコジマ）

- 既存の枠組みを超えた地域・プレイヤーとの連携による、公共空間の利活用

リーディング・エリア
淀川エリア｜都島 Meets NATURE（ミーツ ネイチャー）

- 水辺をはじめとした淀川エリアの自然資源の発掘・魅力発信
- 学校等周辺地域と連携したまちづくり

ビジョンの実現に向けたロードマップ

2040年に向けて、第１フェーズ（着手）、第２フェーズ（推進）、第３フェーズ（発展）の時間軸に沿って、段階的に取組を推進します。

第１フェーズ（着手）2026~2030 → 第２フェーズ（推進）2031~2035 → 第３フェーズ（発展）2036~2040

1 ビジョンを活かすべき機会と各主体の役割

本ビジョンは、まちに関わる多様な立場の人が、日々行う活動を積み重ねることで、その実現を図るものです。
以下のような機会にあっては、一度立ち止まり、本ビジョンの考え方に照らしてみることが大切です。
Chapter３に示すめざしたい都島区の2040年の姿は長い目できっと、皆さんの判断の道標になると思います。

区民一人ひとり

○今の暮らしに少しの変化を得たいとき

「仕事と家庭の往復」「子育てこのままでいいのかな」「引っ越してきたけど近所のことを知らない」…暮らしに少しの変化を得たいと思ったとき、何か始めるきっかけが身近にあるかもしれません。

民間事業者

○新しい事業を検討するとき

皆さんの商品やサービスがもしかして、都島区の暮らしをより良いものにするかもしれません。
都島区の将来にどういった影響があるのかを考えたり、地域の人の意見を聞いたりしてみてください。

○開発事業など不動産を活用しようとするとき

不動産は、個人の資産。でも、まちを形づくる大事な要素です。
未来の区民が暮らすまちのあり方を考える参考にしてみてください。

地域団体

○従来の取組の継続が難しくなったとき

従来のコミュニティや仕組みが機能しにくい時代です。しかし、ピンチはチャンス。地域を時代に合わせて変えていくための指針にしてみてください。

○新たな取組を検討しようとするとき

地域に暮らす人も変わってきた。新しい取組が必要だけど何をしたらいいんだろう。
そんなとき、取組のアイデアのヒントがあるかもしれません。

【役割】
・ビジョンの実現に向けて、活動・事業を展開します
・区内個別のエリアのまちづくりが具体化する際は、本ビジョンに整合しつつ、より解像度の高いエリア・ビジョンを策定するなど目標を共有します。

連携・応援

行政（市・区）

○新たな施策を立案するとき

都島区に関係する施策を立案する際は、本ビジョンを手がかりに、その方針がみんなが描く将来に向かっているかの参考にします。

○立案した制度の運用や、具体的な事業内容を検討するとき

一度方針の決まった施策についても、その運用や具体化の段階において、より将来像の実現に貢献できるものであるかを都度、見直すための手がかりとします。

【役割】
・ビジョンの実現に向けて各種施策・事業を展開

都島区役所 ⇔ 大阪市各局
連携

2 ビジョンの実現に向けた取組の方向性

①まちづくりのステップに応じた取組支援

個別の地域やより小さい単位でまちづくりを進めるときは、このような手順で進めてみませんか。
都島区役所は、市役所や関連団体と連携しながら、皆さんのまちづくりを応援していきます。

都島区まちづくりビジョン2040との整合を確認

みんなの取組

発意する／やってみる ▶ **つながる／仲間をつくる** ▶ **共有する** ▶ **ことをなす**

- 発意する／やってみる：まずは、やりたいことを宣言しましょう！ また、できることからトライし、やりながら考えることも大事です。
- つながる／仲間をつくる：同じ、意思を持った仲間を集めましょう！ チームになれば、アイデアは充実し、できることも広く・大きく。
- 共有する：まちづくりやプロジェクトの方向性を「エリア・ビジョン」として、まとめてみましょう。 めざす先が定まれば、さらに共感者は増えるはず。
- ことをなす：エリア・ビジョンに即して、暮らしやまちを変えていくプロジェクトを立ち上げましょう。

区の応援

スタートアップ支援
- 人材の掘り起こし、活動の立ち上げ（きっかけ）づくり
- 取組の手本になる情報支援
- トライアル（社会実験）等支援
- 検討・協議の場の提供

ステップアップ支援
- エリア・プラットフォーム構築支援
- 住民・公的機関・民間事業者の連携支援
- 区内のまちづくり・活動等の情報発信支援
- 活動団体同士のネットワーク構築

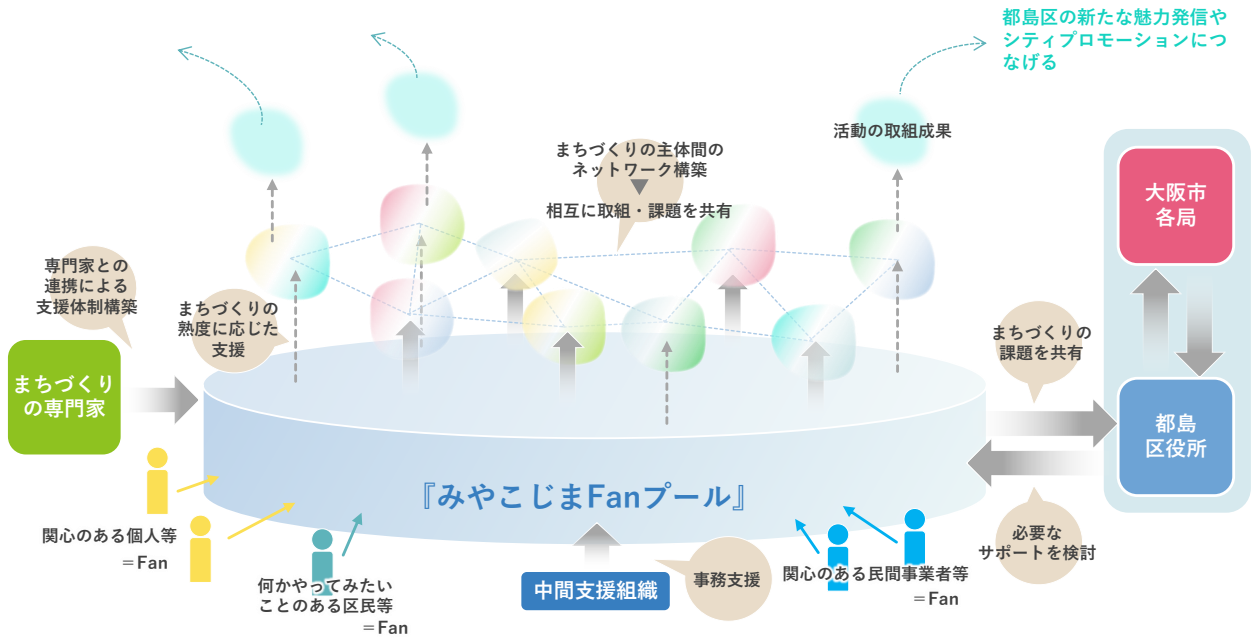
コンセンサス支援
- エリア・ビジョンの策定支援
- エリアにおける議論の場の提供や合意形成の支援

ローンチング支援
- エリア・ビジョンを踏まえた制度の活用、事業調整や公共空間活用支援
- まちづくり・エリアマネジメント活動の実現支援

2 ビジョンの実現に向けた取組の方向性

②区民のまちづくりを応援する区内まちづくりプラットフォームの構築

具体的なまちづくりは、地域が固有の課題やめざす姿に応じ、個々に取組を展開するものですが、
区内のまちづくりの主体が相互に連携や情報・アイデアの共有を図ることができ、
また、まちづくりの動きには至っていないものの、沸々と湧き上がる区民の「やってみたい」という意向をくみ取り、
これを具体化していくためのサポートを図る**区内まちづくりプラットフォーム（みやこじまFanプール）**の構築を図ります。
さらに、Fanプールで生まれた取組の成果を、都島区の新たな魅力発信やシティプロモーションへとつなげていきます。



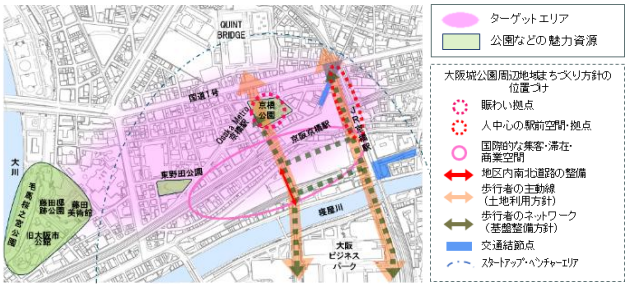
2 ビジョンの実現に向けた取組の方向性

③まちづくりのパイロット・プロジェクトの構築

本ビジョンを体現するまちづくりの先導的なモデルとなる取組を「パイロット・プロジェクト」として位置づけ、活動の拡大と持続可能な運営体制の構築を進めます。また、「パイロット・プロジェクト」で得られた成果や運営ノウハウをモデルとして整理・発信し、区内の他エリアにおいても具体的なまちづくり活動の立ち上げを促進していきます。

具体的には、まず、現在先行的に取組を進めている京橋エリアをターゲットエリア、北部エリア（淀川河川空間周辺）をリーディング・エリアとして位置づけ、公民連携の取組を推進していくとともに、地域意向等を踏まえ、これに続く第３、第４…のパイロット・プロジェクトとしてフォローイングエリアを選定し、活動の立ち上げを図ります。

ターゲットエリア｜京橋エリア



区のシンボル的なエリアとして、京橋公園を中心とするエリアをターゲットエリアとして設定します。

京橋駅南側からの歩行者ネットワークを区内に広げ、つなげていくためには、京橋公園を中心ににぎわいを創出するとともに、人中心のウォーカブルな空間のネットワークの構築や、滞留空間の創出による回遊性の向上を図る必要があります。特にQUINT BRIDGEがある北側や藤田美術館などの地域資源がある西側への人の流れを促進するための取組を行っていきます。

リーディングエリア｜北部（淀川沿岸）エリア

三方を川に囲まれた都島区の中でも、北部（淀川沿岸）エリアは、豊かな自然を身近に感じられる場所です。

大阪・関西万博を契機として整備された淀川ゲートウェイが完成し、さらなる舟運の活性化が見込まれるなど、今後の展開が期待されるエリアでもあることから、北部（淀川沿岸）エリアをリーディングエリアとして、まちづくりを進めていきます。

3 先行的な取組　①ターゲットエリア「Green Oasis Miyakojima」

（グリーン オアシス ミヤコジマ）

既存の枠組みを超えた地域・プレイヤーとの連携による、公共空間の利活用

Green Oasis Miyakojima（GOM）のコンセプトは、都島区のグリーン（緑や公共空間）を活用し、都島区民が、新しいコトや、モノ、ヒトに出会えるオアシス（機会・場）を創出すること。京橋公園を中心に、にぎわいの創出と人中心の空間づくりをめざし、2025年度から試行的に「京橋にぎわいマルシェ」を開催しています。

取組①
京橋にぎわいマルシェの開催

滞留・回遊性の創出、エリアイメージの更新、共創関係の構築をめざし、検証を行うため、京橋にぎわいマルシェを開催。

クラフト物販やネイル体験などのマルシェ、キッチンカーの出店、音楽演奏やダンス、DJなどのスタジオブース、工作遊びやボードゲームなどのこどもブース等、子どもや親子、若い世代の来訪につながるコンテンツを中心に実施。

取組②
実施体制づくり

GOM(Green Oasis Miyakojima)は、都島の緑や公共空間を活かし、都島区民一人ひとりが新しいコト・モノ・ヒトに出会えるきっかけをまちの中に増やしていく取り組みです。新しいチャレンジや活動を起こし、関わる人同士のつながりが自然に広がっていく流れを応援します。人の過ごし方や活き活きとした活動がにじみ出ることで、都島(京橋)の風景やイメージが少しずつ更新されていくことを目指しています。

協力団体（2026年3月時点）
一般社団法人京橋地域活性化機構、一般社団法人まちづくり支援機関ONE京橋コモンズ、都島チャンネル、大阪地下街株式会社　など

2026年度以降の展開

今後は、京橋公園外への活動展開も視野に入れつつ、資金面や運営体制を含め、持続的な取組として定着・発展させるための検討を進めていきます。

3 先行的な取組　②リーディングエリア「都島 Meets NATUREプロジェクト」

水辺をはじめとした淀川エリアの自然資源の発掘・魅力発信

都島 Meets NATUREプロジェクトは、都島区北部の淀川と大川に囲まれた「豊かな自然とゆとりある空間」という魅力を活かした、まちづくりのプロジェクトとしてスタートしています。子どもからお年寄りまで、まちの歴史や文化、豊かな自然を体感しながら、考えたり学んだりすることで、まちへの愛着を育むきっかけになることをめざしています。

取組①
区北部の魅力を発見、共有するイベントの開催

・都島 Meets NATURE 2025、都島 Meets NATURE 2026
・都島区北部の魅力発掘！フィールドワーク

淀川河川公園（毛馬地区）を会場に「自然とあそぶ」をテーマにした、川の施設を見学するミニツアーや、会場の風や緑であそべるワークショップなど都島区の水辺の魅力を再発見できるプログラムを「都島 Meets NATURE」として開催するとともに、区民の皆さんと一緒にまちを巡ったり自然観察をして魅力を発見するフィールドワークを実施。

取組②
ツールの制作

・フェノロジーカレンダー
・ハンドブック

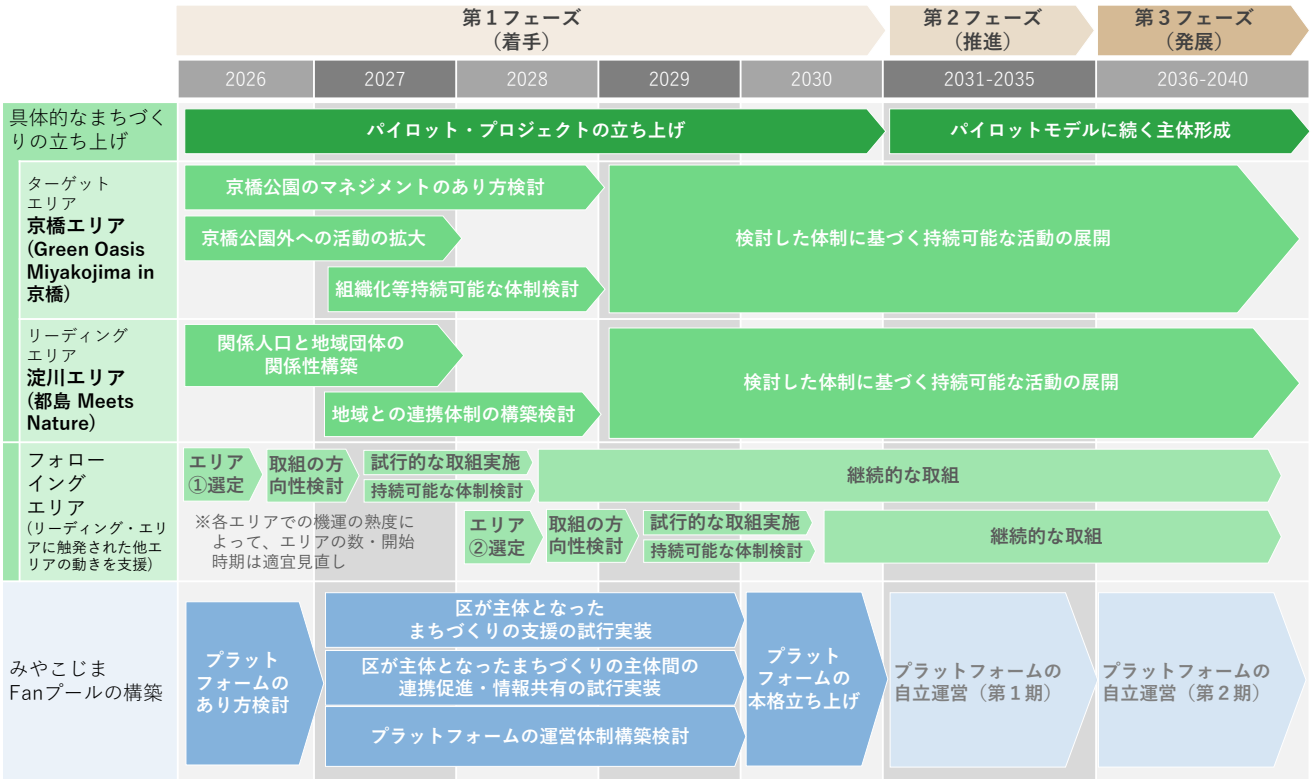
フィールドワークで発見した魅力を含め、都島区北部の魅力を詰め込み、日々の暮らしの中で見つけられる「季節のサイン」を集めたフェノロジーカレンダーと、日常の中にある「ちょっとした魅力」の発見につながるような、都島区北部の歴史・文化や自然を集めたハンドブックを制作。

2026年度以降の展開

制作したフェノロジーカレンダーやハンドブック、これまでのイベントやツールの制作などでつながった人材のネットワークを活かした取組を実践していく。例えば、学校と連携した学びの実践の支援や、都島区北部エリアの魅力を伝える人材の発掘・育成など。

4 ビジョンの実現に向けたロードマップ

2040年に向けて、第１フェーズ（着手）、第２フェーズ（推進）、第３フェーズ（発展）の時間軸に沿って、段階的に取組を推進します。



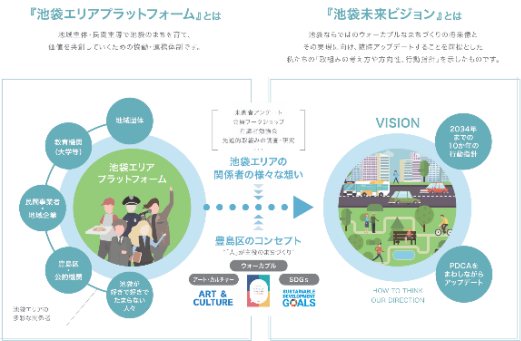
NOTES　参考事例や制度、事業

公共空間をアップデートする

公園や河川、道路などの公共空間を、地域の活動やアイデアによって、「居心地の良い場所」や「にぎわいの場」として活用した事例を紹介します。

参考事例

事例　池袋エリアプラットフォームの取組



社会実験
IKEBUKURO PUBLIC FURNITURE TRIAL

区民やまちへ訪れる人にとって過ごしやすく心地良いと感じる池袋をめざし、2024年10月より池袋内各所にて、まちなかにくつろぎ空間を創る社会実験を実施。

参考：池袋未来ビジョン
https://sunshinecity.jp/file/official/pdf/ike-areaplat_miraivision.pdf
池袋エリアプラットフォームホームページ
https://ikebukuro-areaplatform.jp/report/d2182235-dcdd-4674-b4ae-12c5adf6f7be

制度、事業　官民連携都市再生推進事業

・エリアプラットフォーム活動支援事業
・普及啓発事業

参考：国土交通省「官民連携都市再生推進事業（通称：官民事業）」
https://www.mlit.go.jp/toshi/system/#kanminsaisei

その他参考になる制度、事業

パークファン（みんなで公園活用事業）

市民のアイデアで公園を柔軟に活用する「プログラム」を実施。事務局が担い手を支援し、地域交流や公園の魅力向上・ファン拡大につなげる取組。

参考：パークファン（事務局　大阪市建設局）
https://osakacitypark.jp/

ほこみち（歩行者利便増進道路）

道路を「通行」以外の目的で柔軟に利用できるようにする制度。道路管理者が指定し、利便増進誘導区域を設けることにより、道路占用許可基準（無余地性）を緩和。

参考：国土交通省　ほこみちプロジェクト
https://hokomichi.mlit.go.jp/

かわまちづくり支援制度

推進主体（自治体・民間・住民）と河川管理者が連携し、河川空間とまち空間が融合したにぎわいある良好な空間形成をめざす。共同で計画を作成、登録。河川管理者が計画に基づく支援を実施。

参考：国土交通省　かわまちづくり
https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/

Park-PFI（公募設置管理制度）

飲食店等の公園利用者の利便向上施設の設置と、その収益で園路・広場等を整備する事業者を、公園管理者が公募選定する制度 。

参考：国土交通省　Park-PFI等の活用
https://www.mlit.go.jp/toshi/park/toshi_parkgreen_fr_000059.html

NOTES　参考事例や制度、事業

空き家・遊休不動産を活かす

空き家や空き店舗、未利用地などの遊休不動産は、地域の活動やビジネスの場として再生することができます。

参考事例

事例　まちたね cafe & booksの取組

出典：「おおさか商店街オープン」ホームページ　https://shotengaiopen.osaka/2025/08/27/

商店街活性化施策「おおさか商店街オープン」をきっかけに大東商店街に出店。
だれもが親しみやすい、子どもから大人までが自然体でいられる「第３の居場所」をめざし、シェア型書店や貸しスペースの提供などを通じて、「ここで何かをしてみたい」という想いを後押しし、新たな活動が生まれるきっかけづくりを意識した取組を実施。

制度、事業　おおさか商店街オープン（空き店舗を活用した商店街再生事業）

まちのサポーターやプレーヤーを育て、取組みが拡がりまちに波及効果が生まれることをめざす、”ウチの人・ソトの人”、地元と外部どちらにもに開かれた場（オープン）。

・まちコーディネーター養成講座（machico）
・商店街オープン（空き店舗再生プロジェクト）

参考：「おおさか商店街オープン」ホームページ　https://shotengaiopen.osaka/
「商店街再生事業実行委員会」（事務局 大阪市経済戦略局）ホームページ　https://saisei-osaka.jp/index.html

その他参考になる制度、事業

空家利活用改修補助制度

空家の利活用に向けた良質なストックの形成を促進するため、空家の改修前の劣化状況等を確認する調査や、住宅の性能向上に資する改修、非営利団体等による地域まちづくりに資する用途への改修に対して補助を行う。

参考：大阪市都市整備局　空家利活用改修補助制度
https://www.city.osaka.lg.jp/toshiseibi/page/0000470652.html

マメまちづくり（小規模で柔らかい土地区画整理事業）

人口減少・高齢化の進行や空き地・空き家の増加等により多様化・複雑化する市街地整備のニーズに対応するため、土地区画整理事業を小規模かつ柔軟に活用し市街地を再整備する取組のこと。

参考：大阪市都市整備局　マメまちづくり
https://www.city.osaka.lg.jp/toshiseibi/page/0000620813.html

マメまちづくりのキャラクター
まめまちっち

用語集

ページ番号	単語	意味
表紙（他多数）	Meetable Town（ミータブルタウン）	暮らしを豊かにする“出会いたい”人、場所、活動に“出会える”まちという意味の造語
P.2（他多数）	ウェルビーイング（Well-being）	心身・社会的に満たされたよい状態
P.4,8	DX	デジタル技術で業務・サービス等を変革すること
P.8	ウォーカブル	歩きやすく歩いて楽しい（滞在しやすい）状態・考え方
P.5（他多数）	プラットフォーム（PF）	連携・情報共有・支援のための基盤／場（仕組み）
P.5,47	中間支援組織	行政と地域の橋渡し役として、地域内の各種団体の活動や団体間の連携を支援する組織
P.8	オープンデータ	だれもが利用できる形で公開されたデータ
P.8	グリーンインフラ	自然をインフラとして活かし、防災・環境改善・快適性向上等に役立てる考え方
P.8	シビックプライド	あるまちの住民や関係する人たちが感じる、そのまちへの誇り・愛着
P.8,27	スマートシティ	データやデジタル技術を活用して都市課題解決等を図る都市
P.8	ネイチャーポジティブ	自然損失を止め回復基調に転換する考え方
P.8	リノベーション	既存の建物・空間を改修して価値を高めること
P.9	ユビキタス	どこにでも行き渡っている状態
P.10（他多数）	ハブ	人・情報・交通が集まりつながる中心／結節点
P.10,40,42	スタートアップ	新規性の高い事業に挑戦し成長をめざす企業
P.12,18,19	シェア型モビリティ	自転車・電動キックボード等を共同利用する移動サービス
P.12,20,35	サードプレイス	家や職場（学校）以外の居場所
P.12,20,26	ポテンシャル	潜在力、伸びしろ
P.29,40	イノベーション	新しいアイデアや技術を実用化し、価値を生み出して社会や市場に変化をもたらすこと
P.33（他多数）	プレイス	人が集まり過ごせる場所（居場所・拠点）
P.33,34,35	マインド	気持ち・考え方・姿勢
P.39	リモートワーク	職場以外（自宅等）で働くこと
P.44,46	コンセンサス支援	活動の方向性をとりまとめるための支援（合意形成支援）
P.44,46	ローンチング支援	立ち上げて動かし始めるための支援
P.46	エリアマネジメント	地域を良くするために関係者が継続的に運営・管理・活動すること
P.47	シティプロモーション	まちの魅力を発信して、知ってもらい、訪れてもらう取組
P.48	QUINT BRIDGE（クイントブリッジ）	NTT西日本が運営する、オープンイノベーション施設名

都島区まちづくりビジョン2040
Meetable Town みやこじま ～都島区版 15分都市～
2026年（令和８年）〇月策定
都島区役所 総務課（政策企画）

ホームページ　X　Instagram